

令和7年度(2025年度)八王子市立中学校及び義務教育学校(後期課程)使用教科用図書調査研究報告書(資料作成委員会)

～目次～

国語	1ページ	理科	8ページ
書写	2ページ	音楽	9ページ
社会(地理)	3ページ	美術	11ページ
地図	4ページ	保健体育	12ページ
社会(歴史)	5ページ	技術・家庭	13ページ
社会(公民)	6ページ	外国語(英語)	15ページ
数学	7ページ	道徳	17ページ

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 国語(1／1枚目)

調査の観点	発行者名	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1) ・十分配慮している。3年間を通して反復的学習ができる。 ・他領域の学習との関連を明示している。 (2) ・学習目標と振り返りのポイントを明確に示している。 ・文章量、フォントに小学校からの接続の意識がうかがえる。 ・第2学年では漢詩、第3学年では論語を扱う。	(1) ・十分配慮している。既習事項を反復学習できる。 ・学習内容は単元ごとに重点項目を指定している。 (2) ・思考ツールを用いて視覚的に理解できる活動が多い。 ・第2学年で漢詩、第3学年で論語を扱う。	(1) ・十分配慮している。3年間を通して反復的に学習できる。 (2) ・第1学年を入門期と設定し、小学校からの接続に配慮している。 ・第2学年で論語、第3学年で漢詩を扱う。	(1) ・十分配慮している。各教材のねらいが明確で、3年間を見通して、系統的・段階的な学習を設定している。 (2) ・学習系統を段階的に構成している。 ・第2学年で漢詩、第3学年で論語を扱う。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)重点調査項目 ・見通しから振り返りまでの手引きで学習の流れが分かるので見通しももてる。 ・「読むこと」の学習を通して身に付けた「言葉の力」を「学びを支える言葉の力」で深め、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材で活かす構成になっている。 (2)第3学年版の分量 ・本編約250ページ、資料約70ページであり、各領域の分量は適切である。	(1)重点調査項目 ・語彙についてのコンテンツが充実している。 ・歌詞や漫画などの興味をひきやすく、親しみやすい。 ・「対話」を中心とした学びにより、考えを深めることができる。 (2)第3学年版の分量 ・本編約240ページ、資料約110ページであり、各領域の分量は適切であり、資料が豊富である。	(1)重点調査項目 ・目標と振り返りが明確である。 ・「自分の考えを伝え合おう」などで他者と交流できる構成になっている。 ・個別の学びから協働的な学びへの流れを示している。 (2)第3学年版の分量 ・本編約330ページ、資料約50ページであり、教材を多く収録し、学習の幅を広げている。	(1)重点調査項目 ・単元ごとの振り返りが明確である。 ・単元ごとの具体的な学習内容と目標を示している。 ・対話を生む学習活動を多く設定している。 ・語彙力向上のための工夫があり、主体的に学ぶことができる。 (2)第3学年版の分量 ・本編約270ページ、資料約70ページであり、各領域の分量は適切である。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1) ・40字×20行、1ページ800字。ユニバーサルデザインフォント、手書き風明朝体。黒以外に3色。振り仮名が多い。 ・見開き(2ページ)でデジタルコンテンツ一覧があり、主体的な学習のきっかけとなる。 (2) ・印刷は鮮明。表見返しは、見開き(2ページ)、カラーイラストで詩が掲載されている。 ・扉短歌がある。扉写真が大きい。随所にイラストや写真がある。作品の紹介に写真が多く使われている。	(1) ・43字×20行、1ページ860字。主に明朝体。黒以外に3色。落ち着いた色合い。 ・語注の意味が詳しく、文章の内容を掴みやすい。 (2) ・印刷は鮮明。表見返しは、見開き(2ページ)、写真に詩と教科書名がある。 ・扉には、季節感や情感を想起させるイラストがあり、説明的文章には、資料としての写真が多い。	(1) ・42字×18行、1ページ756字。ユニバーサルデザインフォント、明朝体。黒以外に3色。落ち着いた色合い。 ・古典・漢文も含めて写真やイラストが大きい。 ・SDGsを題材とした随筆がある。 (2) ・印刷は鮮明。表見返しは、見開き、カラー写真に詩がある。裏見返しには、作家にゆかりの場所の多くの写真がある。 ・扉には、中学生の日常生活のイラストを描いている。	(1) ・41字×20行、1ページ820字 ユニバーサルデザインフォント、明朝体。黒以外に3色。落ち着いた色合い。 ・「語彙ブック」が中綴じにあり、興味をひく構成である。 ・折り込み写真が多く(最後の晚餐:絵画・平家物語:絵巻・おくのほそ道:地図)、導入や深化に活用できる。 (2) ・印刷は鮮明。表見返しは見開きで、カラー写真に詩がある。折り込み写真(最後の晚餐・平家物語・おくのほそ道)あり。 ・扉写真では、「時を表す言葉」とそのイメージに合う写真があり、想像力を膨らませる一助となる。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1) ・キャラクターの「問いかけ」が「手びき」の導入になっており、「手びき」を通してまとめを進めることができる。 ・単元後の「これからの学習に生かそう」では、学習内容を整理して、今後の活動に見通しをもつことができる。 ・「自分の考えがどう広がったのかを書こう」で、自己の進捗と社会的に広い視野で捉えることにつなげられる。 ・裏見返しに「言葉の力」の一覧と3年間の系統を示しており、領域へのつながりが確認できる。 (2) ・単元後の「手引き」の問いかけが段階的理解へとつながる。 (3) ・第1学年「食文化のレポート」での取組みとして、八王子市の伝統の食文化について調べ学習ができる。	(1) ・「学びの道しるべ」が見開きとなっていて、全体を捉えやすい。 ・目標が◎○の2段階で、評価ポイントも明確になっている。 ・単元後の「学びの道しるべ」が見開き(2ページ)となっている。「学びを振り返る」では、キーワードが設定されていて、文章の表現力を高めることができる。 ・裏見返しで、「読み方を学ぼう一覧」があり、読み方の項目から、現学年の教材と全体で学習する教材の系統性を明らかにしている。 (2) ・家庭学習で活用しやすいコンテンツが多い。コンテンツの内容も目的に特化している。 (3) ・第1学年「防災に関するデータ」の学習として、八王子市の防災に関連付けた地域性のある学習ができる。	(1) ・「学びナビ」で学習に入る前の準備ができる。 ・「道しるべ」で理解を深め、他者と意見の交流ができる。 ・「言葉の小窓」で言語・知識を日常生活の一場面でとらえている。 ・口語文法、文語文法(用言・助動詞)の活用表があり、古典教材をより発展的に学習することができる。 ・「学びのチェンジ」では、資料や文章を読み取り、判断力・表現力を高めることができる。 (2) ・単元前に、「学びナビ」があり、方法や内容の整理ができる。 ・単元後の「みちしるべ」に、思考課題を設定している。 (3) ・第1学年「お気に入りの一品を紹介する」の学習として、八王子市の名産品について、調べ学習から発表へとつなげる学習ができる。	(1) ・見開きの表面「学習の見直しをもとう」で、教材についての「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価内容が明確になっている。 ・見開き表面で、現学年でどのような学習を行い、どのような力を身に付けるのかを示している。 ・見開き裏面の「思考の地図」では、「広げる」「整理する」「深める」で多面的な理解の方法を具体的に促している。 ・「学びの扉」では、「知る」「読む」「つなぐ」という、段階的な理解の深長につなげている。 ・口語文法の活用表(用言・助動詞)が、各学年にあり、読解力や知識、技能の問題を掲載している。 (2) ・「見直しをもつ」「捉える」で事前確認ができる。 ・「振り返り」の「知る」「読んだうえで」で包括的なまとめができる。 (3) ・第1学年「スピーチをする」の学習として、八王子市のお気に入りの場所の写真を提示して、自分なりの発表活動ができる。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべてにおいて、小学校の学習からの継続性がある。 ・小学校で採用されている作者の詩がある。 ・小説を3作扱い、スモールステップで読む力を育成できる。	・「話すこと・聞くこと」において、読書活動を取り扱っており、小学校第6学年の活動と関連性がある。 ・「書くこと」において、随筆・行事案内リーフレット・意見文が活動として設けられており、継続性がある。 ・「読むこと」において、小学校の学習から段階を踏んだ内容になっている。	・「話すこと・聞くこと」においては、3年間を通して、説明・質問から討論へと段階を踏んだ構成になっている。 ・「書くこと」においては意見文の活動が2つ設定されており、小学校からの関連性がある。 ・「読むこと」において、説明的文章では情報を扱った単元が多くあり第6学年の説明的文章との関連性がある。 ・SDGsに沿って構成されている。	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」それぞれにおいて基本となる活動が冒頭に設定されており、段階を踏んだ構成になっている。 ・「読むこと」において、「登場人物のものの見方の変化」を考える題材があり小学校高学年で扱う文学作品との共通点がある。 ・第3学年では随筆が多く、小学校第6学年との関連性がある。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等		・二次元コードで筆者紹介や文法ゲーム、古典の朗読音声などにアクセスできる。 ・二次元コードにタイトルがついているので、どのようなコンテンツかが分かる。	・二次元コードで古典の朗読音声、「読み方」解説、漢字の読みドリル、書きドリル、などにアクセスできる。 ・二次元コードにタイトルがついているので、どのようなコンテンツかが分かる。	・二次元コードで筆者紹介や関連資料、関連図書紹介にアクセスできる。 ・情報活用育成のためのコンテンツがある。 ・教科書自体に厚みがある。 ・読書教材の紹介が豊富である。	・二次元コードで古典朗読音声、作者インタビュー、漢字の練習、関連資料などにアクセスできる。 ・二次元コードにタイトルがついているので、どのようなコンテンツかが分かる。 ・表紙、裏表紙が、やわらかいが、手を滑らせると少しだけひっかかりがあるようなテクスチャーで持ちやすい。 ・巻末の「語彙ブック」が、自分の考えや気持ちを適切に言語化することをサポートする構成である。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 書写（1／1枚目）						
調査の観点		発行者名	東京書籍	三省堂	教育出版	光村図書出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。			(1) ・各学年で学習指導要領の指導事項を漏れなく指導し、反復できるように なっており、定着を促す工夫がある。 ・書写テストで知識・技能の確認ができる。 (2) ・段階的に技能が伸ばせるよう指導事項が配置してある。	(1) ・学習指導要領の書写に関する事項を漏れなく指導できる。 ・書き込む箇所が多く、また書写テストを設定しているので知識・技能の定 着・確認がしやすい。 (2) ・国語の教科書の内容と合わせて教材がある。	(1) ・各学年で学習指導要領の書写に関する事項を漏れなく指導できる。 ・書き込む箇所が多く、繰り返し取り組む課題が設定されており、知識・技能 が定着しやすい工夫がある。 (2) ・コラムが多数掲載され、関心をひく工夫が見られる。	(1) ・各学年で系統的・段階的に学習指導要領の書写に関する事項を指導できる。 ・書写ブック等の教材で技能を活用する量的な学習の機会を確保しており、 技能が定着しやすい工夫がある。 (2) ・高校への接続がしやすい発展課題を示している。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮してい るか。			(1)重点調査項目 ・書き込み式のワークシートがあり自主的に取り組みやすい。 ・日常に寄り添った課題から対話が生まれやすい。 ・「書写のかぎ」を3学年を通して段階的・系統的に配列し、螺旋的・反復的に 学習を積み重ねられるよう工夫している。 (2) ・資料編を含めて129ページである。硬筆の練習ページが豊富であり、分量 は適切である。	(1)重点調査項目 ・文字マップや漫画を使った導入に興味をひきやすい。 ・イラストや写真が多く親しみやすい。 ・書写ブックがあり練習しやすい。 ・全教材に「目標」及び「振り返ろう」を明示し、知識・技能の定着や自己の変 容を確かめられる構成となっている。 (2) ・資料編を含めて102ページである。適切な分量である。学カテストのページ もある。	(1)重点調査項目 ・書写のテスト問題があり、繰り返し取り組める。 ・3年間の学びを見通した学習ができるとともに、前学年までの学習も含めて 随時振り返ることができる。 (2) ・資料編を含めて136ページである。資料が充実しており、硬筆練習ページも 多い。	(1)重点調査項目 ・書写のテスト問題があり、振り返りしやすい。 ・基本紙面では学習ステップがわかるアイコンを提示することで、学習活動を ナビゲートし、生徒自らが学習手順がわかるように工夫している。 (2) ・資料編を含めて165ページである。学カテストがあり、資料が豊富である。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。			(1) ・B5判で扱いやすい。毛筆のお手本を1ページで印刷している(文字が大き い)。 ・104ページ(付録除く)ユニバーサルデザインフォント、ゴシック体、手書き風 の明朝体を使用している。 ・「書写のかぎ」でポイントを焦点化している。 (2) ・印刷は鮮明。小さな写真が随所にある。 ・中学生など教科書独自のキャラクターが登場する。 ・漫画的な表現でコメントはわかりやすい。	(1) ・B5判で扱いやすい。毛筆のお手本を1ページで印刷している(文字は細 い)。 ・120ページ(付録なし)ユニバーサルデザインフォント、ゴシック体、明朝体 を使用している。 ・取り組むべきポイント、レイアウトがわかりやすく、振り返りの項目を具体的 に明示している。 (2) ・印刷は鮮明。写真は多くない分、わかりやすい説明が多い。 ・中学生など教科書独自のキャラクターが登場する。	(1) ・AB5判(横A4 縦B5)で大きい。毛筆のお手本を1ページで印刷している(文 字は細い)。 ・136ページ(付録なし)ユニバーサルデザインフォント、ゴシック体、明朝体 を使用している。 ・「振り返ろう」があり、○・△で自己評価できる。 (2) ・印刷は鮮明。挿絵が少ない分、説明が細かい。 ・2匹のウサギが登場し、学習のアドバイスをしている。 ・写真が多い(筆遣い・書物・人物)。	(1) ・B5判で扱いやすい。毛筆のお手本が見開き2ページで印刷してあり大き い。 ・165ページ(付録27ページ)ユニバーサルデザインフォント、ゴシック体を使 用している。UDフォントの説明がある。 ・中学生の視点で方法を提示している。 ・SDGsとのつながりの具体例がある。 (2) ・印刷は鮮明。写真が多い(人物・姿勢)。 ・手書きのキャラクターが登場し、問いかけをしている。 ・アニメ漫画(見開き2ページ)があり、興味を引く内容である。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。			(1) ・硬筆は書き込む形式で、自主的に取り組むことができる。 ・毛筆における点画や丸みの筆使いが示され、指導におけるポイントを明確 にできる。 ・常用漢字、楷書・行書の一覧があるので、生徒が字体を調べやすい。 ・巻末の書写活用ブックが使いやすい。 ・「書写テスト」があり、生徒の知識・技能が深まる。 ・「見つけよう」「振り返ろう」で話し合いを行い、「生活を広げよう」では、学習 したことが身近な生活につながる。 (2) ・運筆動画にナレーション、テロップがある。 ・書き込む欄が多い。 ・「見つけよう」で考え、「生かそう」で練習ができる。 (3) ・地域の活動に参加しようという学習で、防災訓練を例として、八王子市の行 事に興味をもたせることができる。	(1) ・硬筆は書き込む形式で、自主的に取り組むことができる。 ・毛筆における点画や丸みの筆使いが示され、指導におけるポイントを明確 にできる。 ・常用漢字、楷書・行書の一覧があるので、生徒が字体を調べやすい。 ・目標が具体的に示され、「振り返り」が問いかけ形式で生徒が取り組みやす い。 ・いろは歌の字形の変化が詳しく、生徒の興味を喚起する。 ・学カテスト問題があり、生徒が自主的に多面的な学習ができる。 ・「資料編」で、日常生活につなげられる。 (2) ・運筆動画に解説がある。 ・お手本にイラストでポイントを示している。 ・書き込み欄が見開き2ページである。 (3) ・歴史上の人物の手紙、明治時代の作品、花火大会のポスターなどの例をも とに、八王子市の文化財や八王子まつりのポスターに興味をもたせる展開を 考えることができる。	(1) ・硬筆は書き込む形式で、自主的に取り組むことができる。 ・毛筆における点画や丸みの筆使いが示され、指導におけるポイントを明確 にできる。 ・常用漢字、楷書・行書の一覧があるので、生徒が字体を調べやすい。 ・「振り返ろう」では、達成度を○△で自己評価できるので、生徒に振り返りを させられる。 ・「書写テスト」で3年間の学習の確認ができる。 ・「書写の教え」では、はがき・包み紙・原稿用紙の使い方など生活に即した 学習ができる。 ・多くの文字の筆順を取り扱っている。 (2) ・「学びリンク」「運筆動画」「ワークシート」等種類が多い。 ・書き込みの欄が大きい。 ・「考えよう」で意見をまとめ、「生かそう」で練習ができる。 (3) ・全国の石碑や石垣に刻み込まれた書体の学習から発展し、八王子市の歴 史に興味をもたせることができる。	(1) ・硬筆は別冊(取り外し式)に書き込む形式で練習欄が多く、自主的に取り組 むことができる。 ・毛筆における点画や丸みの筆使いが示され、指導におけるポイントを明確 にできる。 ・常用漢字、楷書・行書の一覧があるので、生徒が字体を調べやすい。 ・「学びのカギ」では、評価のポイントを明示しているので、生徒に意識を持た せやすい。 ・「書き初めマスターブック」を活用して指導ができる。 ・「考えよう」「確かめよう」「生かそう」で、段階的に学べる構造がある。 (2) ・「書写ブック」で様々なカテゴリの硬筆練習ができる。 ・教科書と別冊のページがリンクしている。 ・毛筆の振り返りを硬筆でまとめられる。 (3) ・全国文字マップで種々の書体が紹介されているのを例として、八王子市の 市報や文化財の文字に興味をもたせることができる。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性につ いて			・楷書→行書と学ぶ際に、「読みやすく書く」という楷書の学習を経て、「読み やすく速く書く」という行書の学習につなげており、小学校で学んだ楷書の知 識・技能を活かしつつ、筆の速度に焦点を当てて行書を学ぶ意義を感じなが ら学習できるような構成になっている。 ・「文学と一緒に」「生活に広げよう」という項目で学ぶ意味を意識できる。	・「自分の文字をよりよくするために」という項目が最初に設けられており、中 学校で書写を学ぶ意味を理解して学習を始めることができるような構成と なっている。学習の段階が、楷書→楷書と仮名→行書→行書と仮名→楷書 と行書というようになっており、スモールステップで学ぶことができる。 ・多くの人が知っている歌が付録となり親しみがある。	・始めのページに「目的に合わせて書こう」の項目があり、書写の学習の意義 を知ることができる。 ・第1学年・第2学年で学んだ楷書・行書を活かして第3学年では「行書と仮名 を調和させて書こう」という項目が設けられており、小学校からのつながりで 学ぶことができる。 ・ポップの作成等、小学校の活動にもあった活動が設けられており親しみが ある。	・最初のページに1年ごとに名前を楷書か行書かで書く欄が設けられており、 3年間での学びの経過を実感することができる。 ・姿勢・筆記具の持ち方、準備・片付けについての項目が始めに設けられてい る。 ・学習の流れが、楷書→行書→使い分けるといように構成されており、小学 校で学んだ楷書を活かしてステップアップすることができる。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充 実に向けて 等			・二次元コードで手本に書き方動画にアクセスできる。 ・紙の表面に凹凸があるので、鉛筆が良くなる。 ・学習内容を教科書に書き込んで確認できる紙面構成となっている。 ・書写のテストや書き方の動画などがあり、わかりやすい。自主的に学べる 工夫がある。	・二次元コードで書き方動画にアクセスできる。 ・書き込んで学ぶ紙面構成となっている。目安となる線が書かれていたり、練 習用の下書き線が書かれていたり、学習者が取り組みやすい工夫がなされて いる。 ・各ページに解説動画、毛筆の書き方動画がある。 ・国語の教科書とのリンクや、漢字の成り立ちや文字を扱う職業の紹介動画 があり、関心をもたせる工夫がなされている。	・二次元コードで手本に書き方動画にアクセスできる。 ・紙の表面に凹凸があるので、鉛筆が良くなる。 ・毛筆、硬筆のお手本に中心線が引かれており、「バランス良く書く」ことに特 化したレイアウトとなっている。 ・直接書き込んで学ぶ紙面構成となっており、学習者が取り組みやすい。 ・左利き生徒用の動画があり、配慮が感じられる。	・二次元コードで書き方の動画にアクセスできる。 ・別冊書写ブックがついており、筆順や字形を練習することができる。ページ 数が多く、その分、情報量も多い。書き込んで学ぶ紙面構成となっており、学 習者が取り組みやすい。 ・タブレット使用時の姿勢も写真付きで解説されている。

種目 社会(地理)（1／1枚目）

調査の観点	発行者名	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・1つの章が「課題をつかむ」、「課題を追うする」「課題を解決する」で構成されており、課題解決型の学習に配慮している。 ・本文ページは①導入資料、②学習課題、③本文、④チェック&トライで構成されている。導入資料が大きく見やすいため、生徒の興味を引き出し学習の動機付けがしやすい。学習課題の明示により本文の学習に見通しをもたせることができる。学習の最後にはチェック&トライに取組むことで学んだことを振り返ることができる。 ・巻頭や各単元においてSDGsを意識した諸課題を設定することにより、社会的な課題に着目させ、生徒の学びを深めようという意図が見える。 ・日本の領土については、問題の背景となっている資源や豊かな自然環境などに着目させ、尖閣諸島、竹島、北方領土の地理的特色をさまざまな角度から扱う構成となっている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・巻頭の「地理を学ぶ5つのミカタ」や各章のまとめにおいて「見方・考え方」をはたらかせるために配慮している。 ・各章末に「資料から発見！」が配置され、生徒に資料を見る視点を与え、資料活用能力を伸ばす配慮をしている。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・各単元で主権者として必要な基礎・基本を習得し、社会的事象を読み解き学び合い、共に生きる力を育むことをテーマに構成している。 ・導入で学習テーマや課題を提示することで学びのきっかけを与え、展開では1コマごとに学習課題を設定し、まとめに基礎・基本を確認することで生徒の主体的な学びを促している。「学習のまとめと表現」のページを各章末に設定することで、生徒が自ら表現し学習内容を整理していく構成となっている。 ・地球的課題とSDGsという観点で、世界の諸地域の中で社会的課題を扱い、多面的・多角的に考察させることにより主権者として共に生きる力を育むようにしている。 ・北方領土に関する年表や東を上にした地図などの資料を示し、日本の領土について歴史的、地理的な視点から理解できるように配慮している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・巻頭やとびらページに「見方・考え方」についての解説がなされ「地理の窓」コラムを掘り下げることとで身に付けられるよう配慮している。 ・各章に「地理の技」コーナーを設け、地図やグラフ等の読み取りを通して、生徒の資料活用能力を高める配慮をしている。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・単元を貫く問いを通して学ぶ構成となっている。導入において豊富な写真資料を眺めることによって、生徒が単元に対する興味、関心を高め学習の見通しをもって臨めるようにしている。 ・1コマ見開き2ページの本文ページは写真資料や地図が大きく、学習課題がつかみやすい。展開やまとめで、地図や資料を活用して課題を解決する学習が豊富に設けられ、生徒の資料活用能力を伸ばそうとする配慮をしている。 ・SDGsに関する具体的な地域事例を多数掲載することによって、「持続可能な社会」の実現に向けた意識を育む工夫をしている。 ・日本の領土については、本文表記やさまざまな地図資料により北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる経緯が歴史的にもつかみやすい工夫をしている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・巻頭に「見方・考え方」をはたらかせるためのポイントを示し、生徒が写真や地図に着目し課題追究できるように工夫している。 ・豊富な図表や資料、「技能をみがく」「アクティブ地理」等の特設ページやコラムをが設け、生徒が地理的事象を多面的・多角的に考察できるように工夫している。	(1)目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・地域の概要をつかむ大観ページから導入へと進む構成である。大観ページは写真が豊富で生徒の興味・関心を引き出しやすい。 ・導入では、その単元を貫く問いを生徒自ら「なぜ」を用いて設定することによって学習の見通しを立て、展開では学習課題に対応した「確認」や「表現」の問いに答えることによって、課題追究を促している。まとめの学習では、生徒が必要な知識を確認したり、思考ツールを用いて議論したりする活動を通して知識の定着を図ることができる。 ・巻頭に「持続可能な社会と私たち」を掲げ、各単元において、SDGsを意識させる教材を設定し生徒の意識を高める工夫をしている。 ・日本の領土については、それぞれ周辺国との関係や国際社会の中で捉えることができるよう、文章による説明を多くして分かりやすくなるよう工夫している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・巻頭見開き2ページに「地理的な見方・考え方って？」を設け、いちご農家を例にイラストを多用し生徒の発達段階に即して分かりやすく説明している。 ・各章末の「まとめとふり返り」は生徒が学んだことを主体的にまとめる構造となっており、知識や技能の定着に配慮している。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・各章に「みんなでチャレンジ」というコーナーを設け、グループで話し合うなどして「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の姿」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習、配列は適切である。 ・総ページ数295(内、目次、統計・資料、用語解説・さいいん等19ページ)で、分量は適切である。 ・「導入の活動」で小学校の学習を振り返り、「探究課題」を立て、「学習課題」を解決しながら進み、「まとめの活動」という流れで、系統的、発展的な構成になっている。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「特設ページ」ではグループ学習を設け、「主体的・対話的な深い学び」が実現できるように配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の姿」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習、配列は適切である。 ・総ページ数295(内、もくじ、用語解説、統計資料、さいいん等16ページ)、分量は適切である。 ・節ごとに、「学習テーマ(視点)」が提示され、「学習課題」を解決しながら進み、章・節末の「学習のまとめと表現」で振り返るという流れで、系統的、発展的な構成になっている。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・章・節末の「学習を振り返ろう」で思考ツールを活用しながら主体的に考えをまとめたり、対話を通して学習を振り返らせたりすることで「対話的で深い学び」が実現できるよう配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の姿」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習、配列は適切である。 ・総ページ数300(内、さいいん等6ページ)、図表や写真が大きく分量は適切である。 ・章・節の最初に「章(節)の問い」を提示し、「学習課題」を解決しながら、「章(節)」の学習を振り返ろう」という流れで、系統的、発展的な構成になっている。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・各章末の「まとめとふり返り」は生徒が主体的に学習をまとめるつくりとなっている。「気候推理ゲーム」や「議論してみよう」「学び合いマーク」等対話的な学びができるように配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の姿」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習、配列は適切である。 ・総ページ数300(内、さいいん等6ページ)、各章冒頭に大観ページを設け、分量は適切である。 ・章・節の最初に「章(節)の問い」を提示し、「学習課題」を解決しながら、「章(節)」の学習を振り返ろう」という流れで、系統的、発展的な構成になっている。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントで、カラーユニバーサルデザインを採用し色覚特性に適応したデザインである。一行に28文字で文字間が広めである。 ・ページ下部に「チェック」「トライ」で学習を振り返ることができる。「領土・領海・領空」「都道府県」「県庁所在地」は送り仮名が無い。 ・「世界の諸地域・地球的課題」はSDGsに関連付ける導入がわかりやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・扉絵が世界の食べ物の写真となっており、生徒の興味・関心をひきやすい。 ・全体的に余白を広くとり、写真、挿絵のフォントを小さめに設定するなどして本文と区別、文字の分量が過剰にならないように配慮している。 ・「スキルアップ」は枠がなく、下地が落ちついた緑色になっている。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントで、カラーユニバーサルデザインを採用し、より多くの人に見やすいデザインである。一行に29文字で文字間がやや広めである。 ・ページ右下に「確認」「表現」で学習を振り返ることができる。「領土・領海・領空」「都道府県」「県庁所在地」は送り仮名が無い。 ・「世界の諸地域・地球的課題」は文字の強調を控え落ち着いたレイアウトとなっている。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・THINK、TRYで学びを深める学習ができる。扉絵が学習の仕方、SDGsについて取り扱っており生徒の学習を動機付けることができる。 ・落ち着いた色づかいで、余白がやや広い。「地理の技」は黄色地に「技」の字が大きく行書体でかかれているアイキャッチしやすいデザインになっている。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントで、カラーユニバーサルデザインを採用し、より多くの人に見やすいデザインである。一行に30文字で文字間は標準的である。ページ右下に「確認しよう」「説明しよう」で学習を振り返ることができる。 ・「領土・領海・領空」「都道府県」「県庁所在地」は送り仮名がある。地理プラスで学びを深めることができる。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・扉絵はSDGsで色使いがはっきりしており写真も鮮やかである。余白は少な目である。用語の解説もあり、文字数が多く情報量が多い。 ・「技能をみがく」は下地が薄い黄色で枠が紫色ではっきりしている。学習課題や見出しの地の色がクリーム色で文字が見やすい。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントで、カラーユニバーサルデザインを採用し、より多くの人に見やすいデザインである。一行に30文字で文字間は標準的である。ページ右下に「確認」「表現」で学習を振り返ることができる。 ・「領土・領海・領空」「都道府県」「県庁所在地」は送り仮名がある。TRYで学びを深めることができる。「世界の諸地域・地球的課題」はSDGsに関連させ、世界の平均気温、二酸化炭素排出のグラフを表示し、導入しやすい内容である。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・扉絵がSDGsで、写真と項目を合わせた解説がついている。 ・「スキルアップ」は枠線が黄土色の細い線で、下地は白。余白はやや少ない。写真の脚注も見やすく表記している。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1)教員にとっての使いやすさ ・見開き2ページで1時間の学習ができる構成となっている。各ページに探究課題と「チェック」「トライ」を設け、生徒の主体的な学習を重視したい教員にとって、特に使いやすい。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮 ・見開き2ページの中に「チェック」「トライ」があるだけでなく、まとめページが充実しており、ワードチェックや「確めよう」で知識を確認できる工夫をしている。 (3)地域性に対しての配慮 ・地域調査ページでは、兵庫県神戸市を例に取り上げている。調査テーマ例が大水害と防災となっているが、地域防災の視点でまとめられている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・見開き2ページで1時間の学習ができる構成となっている。各節や章の冒頭にねらいを明記している。導入部で学習の動機付けを重視したい教員にとって、特に使いやすい。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮 ・見開き2ページの中に「確認」「表現」があり、ページ下部に歴史・地理との関連を示している。さらに資料にある「THINK」で、考え、まとめる力を養成できる。 (3)地域性に対しての配慮 ・地域調査ページでは、愛知県名古屋を例に取り上げている。調査テーマ例が水害となっており、治水の視点でまとめられている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・見開き2ページで1時間の学習ができる構成となっている。写真や地図が多く配置されており、写真等の資料を活用した外観学習から入りたい教員にとって、特に使いやすい。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮 ・見開き2ページの中に「確認しよう」「説明しよう」がある上、小学校・歴史・公民・他教科との関連をページ下部に記し、既習事項や他教科との関連がわかりやすい。 (3)地域性に対しての配慮 ・地域調査ページでは、東京都練馬区を例に取り上げている。テーマは人口の変化と農業の関わりとなっており、八王子市に最も近い地域が取り上げられている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・見開き2ページで1時間の学習ができる構成となっている。本文の文字量が多いため、本文の説明や読み取りを重視したい教員にとって、特に使いやすい。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮 ・見開き2ページの中に「確認」「表現」があり、取り組みやすい内容となっている。「単元を貫く問い」「編・章・節の問い」で、単元の学習を振り返ることができる。 (3)地域性に対しての配慮 ・地域調査ページでは、京都市伏見区を例に取り上げている。テーマは酒蔵と酒造業で、修学旅行で京都を訪れる際にも活用できるようになっている。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		(1)学びの継続性や各教科の系統性 ・各単元の導入ページでは、「小学校の社会で習ったことば」を示し、既習学習を振り返ることができる。 ・二次元コードを使って既習事項を振り返ったり、単元の学習をイメージしやすい動画が用意されている。	(1)学びの継続性や各教科の系統性 ・巻頭から第1編にかけて、多くの「振り返り」を取り入れ、地理的分野のウォーミングアップの役割を兼ねている。 ・歴史的分野との関連を踏まえつつ、日常生活で身近なツールである地図から授業に入れる工夫をしている。	(1)学びの継続性や各教科の系統性 ・小学校での学習内容との関連を各単元のページ下部に記載していることで、これまでの学びを活かすことができる。 ・資料には「小・歴・公」のアイコンが付されており、小学校の学習との関連を確認できるようになっている。	(1)学びの継続性や各教科の系統性 ・各単元のはじめには、「小学校で学習した内容」を示し、小学校での学びを振り返りながら初期の学習をはじめられる。 ・「日本の地域的特色と地域区分」を中心に、小学校社会科との連携コーナーがページ下部に付いている。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等		(1)二次元コード等のICT活用に対する工夫(合計351のコンテンツ) ・二次元コードを読み取ることで、多彩な二次元コンテンツで学びをサポートする工夫が見られ、導入やまとめだけでなく、展開の際にも、NHK for Schoolなどのさまざまな動画やシミュレーションなどにアクセスできる。 (2)ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実に向けた工夫 ・基礎的な技能を身に付けるための「スキル・アップ」動画やグループ活動のための「みんなでチャレンジ」も二次元コードを使って取り組むことができる。	(1)二次元コード等のICT活用に対する工夫(合計223のコンテンツ) ・二次元コードを読み込むことで、授業や家庭学習に役立つ動画や写真、図版、ワークシートなどが盛り込まれた「まなびリンク」にアクセスでき、動画の視聴やクイズ、関係機関のウェブサイトへのアクセスなどができるようになっている。 (2)ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実に向けた工夫 ・授業外でも二次元コードを読み込めば、単元に関係するクイズを解くことができる。また資料収集に役立つウェブサイトにもアクセスできるので、グループ学習での調査・研究に役立つ。	(1)二次元コード等のICT活用に対する工夫(合計1705のコンテンツ) ・二次元コードを読み込むことで、さまざまなコンテンツを利用できる。学習の見通しをもたせるための動画や学習を振り返るためのワークシートや一問一答、思考ツールや白地図の利用など、利用しやすく整理している。 (2)ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実に向けた工夫 ・考えを整理するための「思考ツール」を活用することで、学習内容を整理したり、他の生徒の考えを比較したり関連づけたりすることができる。	(1)二次元コード等のICT活用に対する工夫(合計301のコンテンツ) ・すべての節の導入ページに二次元コードがあり、「イントロダクションムービー」を視聴することができる。また生徒の学習履歴を記録できる「ポートフォリオ」では、学習用端末上でデータ保存もできる。地理的技能を解説するスライドショーも見ることができる。 (2)ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実に向けた工夫 ・重要語句を確認できる「確認小テスト」を解くことができる。学習内容のまとめに役立つ白地図をダウンロードできる。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 地図（1／1枚目）

調査の観点	発行者名 東京書籍	帝国書院
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・地理的分野の学習内容に沿った資料が選定されており、同社の教科書と併せて、教科書と地図帳のセットで活用することで学習効果が高まる配慮をしている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・表紙にハチ、裏表紙にイカのキャラクターが描かれ、親しみやすく、小学校との接続を意識している。主に地理的分野を学習する際に地図帳を活用するため、第1・第2学年で使用するよう焦点化を図っている。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対する配慮 ・地理的分野の学習指導要領の目標・内容に沿っており、かつ歴史的分野・公民的分野の学習でも活用できる配慮をしている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・表紙は、高等学校との接続を意識している。地理的分野を学習する第1・第2学年だけでなく、地図帳を3年間通して使用し、修学旅行や公民的分野でも活用できるつくりとなっている。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・各所にあるキャラクターの吹き出しに、主体的に考えられる発問が掲載されている。また、探究課題に沿って活用できる資料を掲載し、学習効果を高める工夫をしている。 (2)各領域の構成・分量 ・学習指導要領を基にした構成で、世界の各州・日本の各地方における自然・産業・人口などの主題図、世界と日本の一般図で主に構成されている。分量については、資料が精選されており、教科書と併せて活用する想定であることから、全体的に少なめである。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・地理的分野だけでなく、歴史的分野や公民的分野での学習内容に関する資料を具体的に掲載している。「歴」「公」などマークもあり分かりやすく、主体的に学びやすい工夫をしている。 (2)各領域の構成・分量 ・世界の州は、原則として「一般図」→「俯瞰図」→「資料図」という配列で、日本の地方は、原則として「一般図(地方別地図)」→「一般図(拡大図)」→「資料図」という配列であり、学習しやすい構成である。分量については、俯瞰表現が豊富であるため、全体的に多い。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインを採用し、色覚特性に適したデザインである。令和3年度本と比べ、縦に4cm拡大したことでA4判となり、帝国書院の地図帳と同じ大きさになった。ページ当たりの情報がやや少なく、総ページ数も176である。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・地図の発色がやや抑えめである。紙面は広く、帝国書院の地図帳と同じ範囲を見渡せる。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインを採用し、色覚特性に配慮したデザインである。扉絵の世界地図には、世界の河川、ナイル川、アマゾン川などの河川に、名称も表記している。ページ当たりの情報量が多く、総ページ数も198である。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・地図の発色が鮮やかで、低地と高地のコントラストが鮮やかである。俯瞰図は地形が立体であることを想起しやすい。海嶺もきれいに表示されており、見えない海底の様子も想像しやすい。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくするための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)教員にとっての使いやすさ ・統計資料を5ページにわたって掲載しており、世界の州や日本の地方、国ごとの色分けが鮮やかで、指導しやすい。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮 ・9ページにわたる索引は字が小さく、細い。索引の最初に、「さくいんの使い方」という二次元コードが付されている。 (3)地域性に対する配慮 ・関東地方南部の地図(50万分の1)では、全体的に色づかいが濃いいため、八王子市の市街地(黄色)が小さく、森林(茶色)が広く見える。多摩地区は「東京の歴史と治水」という見開き2ページがある。	(1)教員にとっての使いやすさ ・統計資料を9ページにわたって掲載しており、世界と日本、農林水産物、鉱産資源、工業製品の生産だけでなく、自然統計や日本の市と人口の統計も掲載している。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮 ・11ページにわたる索引には、世界遺産、油田、炭田、鉱山などが地図記号化されており、何を調べているのか視覚的にわかりやすい。 (3)地域性に対する配慮 ・関東地方南部の地図(50万分の1)では、全体的に色づかいが薄いいため、八王子市の市街地が広く、森林(茶色)が狭く見える。多摩地区は「東京都周辺の地形～水と人の関わり・防災～」という見開き2ページがある。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	(1)学びの継続性や各教科の系統性 ・サイズがA4判で、小学校で使用する地図帳と同サイズになり、見た目や大きさの点でも学習の移行がスムーズとなる。 ・巻頭に一般図・主題図の見方、デジタルコンテンツの使い方が載っていると、SDGsについては17のゴールが1ページにまとまっている。	(1)学びの継続性や各教科の系統性 ・巻頭ページに小学校での学びを振り返る項目があり、さらに一般図・地形図、鳥瞰図、主題図の見方が載っているだけでなく、地図を読み解くポイントやテーマごとの地図の読み取り方法を示している。 ・SDGsの17のゴールをはじめ、持続可能な社会について、環境や経済、食糧などをテーマにした資料・地図が7ページにわたって掲載している。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	(1)二次元コード等のICT活用に対する工夫 ・デジタル地球儀、デジタルマップ、世界の気候景観、世界と日本の統計、比べる雨温図、地理的技能的練習、Web地図解説動画、問いの解答、世界の国旗、世界の国クイズ、白地図などについて二次元コードが見開き2ページに1つずつ約80カ所付されており、「問い」の解答例も含まれている。 (2)ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実に向けた工夫 ・関連する資料が二次元コードで扱われていることにより、それらを組み合わせる学習ができる。	(1)二次元コード等のICT活用に対する工夫 ・地図の基礎・基本、小学校の振り返り(クイズ付き)、SDGs、世界と日本の地図・資料、地域別資料、地図帳主題図一覧、統計資料、地域見える化GISジオグラフ、NHK for School、他分野教科書リンク、リンク集、問いの解答・解説、白地図などについて二次元コードが約60カ所付されており、全971コンテンツとなっている。 (2)ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実に向けた工夫 ・学習内容の習得や、生徒の調べ学習を支援するコンテンツにより、特に、個別最適な学びを支援する工夫をしている。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成員会）

種目 社会（歴史）（1／1枚目）

調査の観点	発行者名	東京書籍	教育出版	帝国書院	山川出版社	日本文教出版	自由社	育鵬社	学び舎	令和書籍
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1)学習指導要領の内容に沿ったきめ細かな内容になっており、教科書を軸に進めていくことができる。 ・「歴史的新見方・考え方」を5つの視点から考察できるようにするため、導入時にコーナーを設けていて、本文の中でもマークにより分かるようになっている。 ・写真や歴史地図等の資料(スキルアップのコーナー等)を数多く掲載し、多面的・多角的に考察できる機会を設けている。 ・現代的な諸課題として「環境・防災・人権」等の5つのテーマについてコーナーを設けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・巻頭に「資料から発見」という既習事項の絵画資料から生徒の興味・関心を高める工夫をしている。 ・学習課題の上に興味・関心をもちやすいキャッチコピーが書かれている。 ・各章の章末に時代ごとに発達段階に応じた思考ツールを紹介して時代の大観ができるようにしている。	(1)学習指導要領の内容に沿ったきめ細かな内容になっており、教科書を軸に進めていくことができる。 ・「歴史的新見方・考え方」を3つの視点から考察できるようにするため、導入時にコーナーを設けていて、章末に活用するコーナーも設けている。 ・「歴史の窓」のコラムや資料を数多く掲載し、多面的・多角的に考察できる機会を設けている。 ・「歴史を探ろう」で今日的な課題が反映された事象に焦点を当てている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・「歴史ゲームで遊ぼう」等、ゲーム形式で既習事項を確認する内容を設けていて歴史学習の導入の工夫をしている。 ・各章のはじめに絵を用いて学習課題と共に、時代をイメージできる工夫をしている。 ・キャラクターを活用して学習課題に取り組みやすい工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に沿ったきめ細かな内容になっており、教科書を軸に進めていくことができる。 ・「歴史的新見方・考え方」を4つの視点から考察できるようにするため、導入時にコーナーを設けて、本文や章末でもマークで分かるように示している。 ・資料だけでなく、地域史やさまざまなコラムがあり、多面的・多角的に考察する機会を設けている。 ・「世界とのつながりを考えよう」のコーナーを設け、世界と日本とのつながりに焦点を当てている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・タイムトラベルのページで、見開き2ページを使って各時代の様子がイメージしやすい工夫をしている。 ・見やすいように全体的に人々の営みが大観できるイラスト資料・イラスト地図等を大きく掲載している。 ・キャラクターを用いて学習課題に取り組みやすいような工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に即した教科書である。 ・導入部で歴史学習における歴史の見方・考え方について基本事項をまとめている。 ・各ページに掲載している資料に「問い」がついており思考・判断・表現力を高める工夫をしている。 ・高等学校への接続を意識し、因果関係を重視した説明と歴史史料を多く盛り込んでいる。 ・グローバルな視点でみたテーマ(歴史へのアプローチ)や地域の歴史を取り上げるコーナー(地域からのアプローチ)を設け、多面的・多角的に考察する機会を設けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・時代の転換期となる世紀ごとにその当時をイメージしやすいイラストを多く掲載して、初めて目にするものをわかりやすく示している。 ・各章の終わりにまとめがあり、知識・技能が定着できるように工夫している。 ・各章のはじめにその章で学習する時代の帯年表を入れ、一目でその時代の日本と世界の大きな歴史の流れをつかみやすい工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に沿ったきめ細かな内容になっており、教科書を軸に進めていくことができる。 ・「歴史的新見方・考え方」を4つの視点から考察できるようにするため、導入時にコーナーを設けて、本文でも学習課題ごとにマークにより示している。 ・資料等の読み取りにおいて視点(スキルアップ)が提示されていて、多面的・多角的に考察できる機会をつくっている。 ・「人権・平和・防災」等の現代的な諸課題を考えることができるコーナーを設けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・キャラクターを用いて学習課題に取り組みやすいような工夫をしている。 ・まとめと振り返りに各章にあり、その章の振り返りや知識・技能の定着を図りやすい。 ・文化史は、特徴が読み取りやすいように資料が大きく、数多く掲載される等の工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に即した教科書である。 ・歴史の捉え方という章で歴史の見方について導入部に基本事項を書いている。 ・章末に「歴史的新見方・考え方」を働かせた時代の特色を捉える内容を設けている。 ・国家及び社会、文化の発展に尽くした歴史上の人物の資料を数多く載せている。 ・章ごとに身近なテーマで「調べ学習のページ」を設けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・序章で「歴史と物語と史料」等のページを設け、歴史に興味・関心をもてるように工夫している。 ・さらに知識を深く身につけた生徒のために、「もっと知りたい」というコラムを用意している。 ・キャラクターを用いて学習課題に取り組みやすい工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に即した教科書である。 ・「歴史的新見方・考え方」を働かせるようにするため、導入時にコーナーを設け、本文でもマークや「歴史絵巻」「歴史にズームイン」等を示している。 ・資料を数多く掲載し、多面的・多角的に考察する機会をつくっている。 ・「歴史ビュー」や「人物クローズアップ」で伝統的な人物の資料や社会・文化の発展等に尽くした人物について紹介するコーナーを数多く設けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・各章のはじめに歴史絵巻を用意し、その時代のイメージをもちやすく構成している。 ・各章の終わりに学習のまとめがあり、知識や技能の定着がしやすい工夫をしている。 ・キャラクターを用いて学習課題に取り組みやすい工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に即した教科書である。 ・歴史の学習の仕方や「歴史的新見方・考え方」について、導入部で基本的事項を簡潔に書いている。 ・一つの歴史上の出来事に注目し、そこから歴史的な背景や事象を考えられる工夫をしている。 ・地域やその国で知られる人物を多く取り上げ、多面的・多角的に考察できるようにしている。 ・「女性」「平和」「主権者としての現代の課題」等のテーマを設け、歴史を今日の課題と結び付けている。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・導入部で「小学校で学んだ人物と文化」を取り扱い、歴史に興味・関心をもてるように工夫している。 ・絵や写真等の資料が多く、大きく掲載されており、読み取りやすい配慮をしている。 ・各章のはじめに描かれている世界地図の中に、その時代の各地の様子を表す写真や絵を掲載し、興味・関心をもちやすい工夫をしている。	(1)学習指導要領の内容に即した教科書である。 ・導入部で年代や時代の表し方、「歴史の見方・考え方」について簡潔にまとめている。 ・章のはじめに、「政治」「外交」「文化」「産業」という視点で学習課題を設定し、多面的・多角的に考察できる機会を作っている。 ・「国史」という視点で、古代史では「古事記」や「神話」、近世史では「皇位継承」、近代史では、「教育勅語」や「昭和天皇の二度の御聖断」等の皇統について、コラムや記述を多く掲載している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮をしている。 ・導入部で「小学校で学んだ人物と文化」を取り扱い、歴史に興味・関心をもてるように工夫している。 ・「中世」以降、写真や絵画の資料などが数多く掲載し、内容が理解しやすい。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)単元を貫く「探究課題」(章の問い)、「探究のステップ」(節の問い)、各見開きの「学習課題」「チェック&トライ」、章末の「まとめの活動」と単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」の実現ができるように配慮している。 ・見開き右側のページに年表と時代区分があり、生徒にとって歴史全体の流れを確認しながら学習しやすい。 ・各見開きのページには、導入の課題が左上に示され、学習後に学習内容を確認する「チェック&トライ」がページ最下部にあり、特定の展開がつかみやすい。 ・「資料から発見!」や「時代の特色のとらえ方」で資料を主体的に読み取る学習が、「みんなでチャレンジ」では、対話的な学びが行える。 (2)本文202ページ、本編287ページ、7章構成である。本編109単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。	(1)単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認」「表現」、章末の「学習のまとめと表現」と、単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」の実現ができるように配慮している。 ・各見開きのページには、左上に学習課題と学習内容のキャッチコピーを示している。 ・学習課題の左上に年表がおかれており、歴史学習全体での本時の位置をつかみやすい。 ・「歴史の技」や資料に対する発問である「Q」や「THINK」では資料を読み解く視点を示して資料活用能力や歴史学習の基本的な技能が身に付けられるように工夫している。 (2)本文200ページ、本編298ページ、7章構成である。本編108単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。	(1)単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、章末の「学習を振り返ろう」と単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 ・右側のページに年表と時代区分があり、歴史の全体の流れを確認しながら学習することができる。 ・学習課題ごとに「導入資料」が提示され、生徒の気付きや疑問を想起させる工夫をしている。 ・「アクティブ歴史」では、「主体的・対話的で深い学び」になる学習内容を多く設定し、さまざまな課題を解決できるように工夫している。 (2)本文200ページ、本編311ページ、7章構成である。本編104単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。	(1)単元の導入で見通しが立てられるよう概要が記されており、各見開きの「学習課題」「ステップアップ」、章末の「まとめ」と単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように配慮している。 ・「歴史を考えよう」では、さまざまな問いを設けて、資料を読み解く力を学習できる。 ・「チャレンジ歴史」「地域に学ぶ」「先人に学ぶ」では、資料をもとに自分で考える課題が提示されており、主体的に取り組める工夫をしている。 ・対話的で深い学びにつながる活動として、各時代に「学び合い」というマークを示している。 (2)本文198ページ、本編307ページ、6編7章構成である。本編106単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。	(1)単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認」「表現」、章末の「学習のまとめ」と単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように配慮している。 ・右側のページに年表と時代区分があり、全体の流れを確認しながら学習できる。 ・「チャレンジ歴史」「地域に学ぶ」「先人に学ぶ」では、資料をもとに自分で考える課題が提示されており、主体的に取り組める工夫をしている。 ・対話的で深い学びにつながる活動として、各時代に「学び合い」というマークを示している。 (2)本文194ページ、本編288ページ、7章構成である。本編102単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。	(1)単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」「探究」、章末の「学習のまとめ」と単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」を実現できる配慮をしている。 ・各見開きのページには、導入の課題が左上に示され、学習後に学習内容を確認する「確認と探究」がページ右下にあり、本時の内容を確認しやすい。 ・年表が左下にあり、全体の流れを確認しながら学習することができる。 ・「歴史ズームイン」では、「TRY」を設けて、資料をもとに班で話し合う活動を取り入れられる工夫をしている。 (2)本文196ページ、本編300ページ、序章を含めると7章構成である。本編104単位時間程度であり、標準時数・発達段階に合致している。	(1)単元を貫く「章の問い」、各見開きの「学習課題」「確認」「探究」、章末の「学習のまとめ」と単元の「まとめ」の中で「主体的・対話的で深い学び」を実現できる配慮をしている。 ・「学習のまとめ」では、班で話し合う活動を取り入れることができる。また、「歴史を体験する」の中では、体験的な活動を通して、歴史を主体的に学べる工夫をしている。 (2)本文234ページ、本編298ページ、6部10章構成である。本編120単位時間程度であり、指導計画時間上限に近い。	(1)単元のはじめに「学習課題」、最後に「考えよう」という単元のまとめを設け、単元のまとめの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現できる配慮をしている。 ・太字や重要語句を表記せず、本文全体から時代を理解する姿勢を育てる構成としている。 ・各ページ右下にミニコラムがあり、生徒の興味・関心を高めることができる。 ・学習のまとめには、班で話し合う活動を取り入れることができる。また、「歴史を体験する」の中では、体験的な活動を通して、歴史を主体的に学べる工夫をしている。 (2)本文396ページ、本編463ページ、6章構成である。本編126単位時間程度であり、指導計画時間上限に近い。 ・B5版で縦書き、上下二段構成の教科書になっている。	
3 ユニバーサルデザインに関する配慮 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1)簡潔で分かりやすく、読みやすい表現である。(1ページあたり28文字×15～20行) (2)ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすくしている。資料部分には地色を敷いて本文と区別している。目に優しい色使いであり、大きめの写真が使用されている。地図やグラフも見やすい。	(1)簡潔で分かりやすく、読みやすい表現である。(1ページあたり30文字×17行程度) (2)ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすくしている。資料部分には地色を敷いて本文と区別している。目に優しい色使いであり、やや小さめの写真が多く使用されている。地図やグラフも見やすい。見出しがシンプルで見やすい。	(1)簡潔で分かりやすく、読みやすい表現である。(1ページあたり30文字×15～20行) (2)ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすくしている。印刷は鮮やかであり、大きめの写真・地図・挿絵を使用している。	(1)読みやすい表現であり、文章量が多い。(1ページあたり35文字×25～35行) (2)ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすくしている。カラーユニバーサルデザインに配慮し落ち着いた色合いである。	(1)簡潔で読みやすい表現である。(1ページあたり30文字×20行) (2)ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすくしている。カラーユニバーサルデザインに配慮し、落ち着いた色合いの印刷で、大きめの写真や図を使用している。	(1)読みやすい表現であり、文章量が多い。(1ページあたり30文字×21行程度) (2)印刷は鮮やかであり、大きめの写真や図を使用している。	(1)読みやすい表現であり、文章量が多い。(1ページあたり30文字×21行程度) (2)印刷は鮮やかであり、文字のフォントが大きく見やすい。大きめの写真・地図・挿絵を使用している。	(1)読みやすい表現であり、文章量が多い。(1ページあたり32文字×20行程度) (2)落ち着いた色合いで、A4版のため、写真や図が大きく掲載され、ページの構成にゆとりがある。資料部分に地色を敷いて本文と区別している。	(1)専門的な用語の使用も見られ、字が小さく、文章量が多い。(1ページあたり24文字×19行程度×2段) (2)本文は白黒印刷で、巻末の「日本美術図鑑」のページでは、写真が大きめに印刷されていて見やすい。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすいため配慮されているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1)1時間の学習の流れを見開き2ページで「見える化」しているため、教員にとって使いやすい。 ・各章の導入部分に各節の課題追究の項目があり、単元を貫く課題を設定できるので、教員にとって授業の目標が提示しやすい。 ・各単元に主たる題名とは別に簡単な言葉で単元の題名が書かれており、生徒にとって単元の中身を理解しやすく、導入時に活用できる。 (2)各単元にある二次元コードを機器で読み取することで、内容の理解につながる動画やさまざまなコンテンツ(計382)が利用できる等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・各章の終わりに「探究課題」の欄があり、導入で提示した課題をまとめる内容になっている。 (3)本市の記載はないが、「地域の歴史を調べよう」で新潟や福井等を扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成し、授業計画を立てやすいので、教員にとって使いやすい。 ・各章の始めにイラスト、写真を見て考える設問があり、授業の導入として活用できる。 ・章ごとに問いを設定しており、章末での問いについて考えるための筋道が立てられているため、教員にとって章を通して授業が組み立てやすい。 (2)各章のはじめ等にある二次元コードを機器で読み取することで、内容の理解につながる各種学習コンテンツにアクセスして学習に活用できる等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・節の最後のページの右下に「キーワードの例」があり、重要語句として知識の整理に役立つ。 (3)本市の記載はないが、コラムなどで全ての都道府県の事例を扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成しているため、教員にとって使いやすい。 ・資料が豊富で対応する「問い」があり、解説も詳しく、生徒が考える機会を設けやすい。 ・本文の文章量が多く、授業で多くの出来事を教示できる。また、各章のまとめは単元を振り返って記入しやすくしている。 (2)各章ごとにまとめるページがあり、章の学習で学んだ人物については、小学校で学習した人物を手掛かりに時代区分を学べる配慮をしている。 ・各見開きページの最後に「ステップアップ」という欄を設けて主体的な学びを促す発問を設定している。 (3)本市の記載はないが、多摩地方の歴史として、「多摩地域の空襲を調べる」(立川市や東大和市)「玉川上水」を扱っている。 ・「地域からのアプローチ」で、福岡、広島など日本の諸地域をバランスよく扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成しているため、授業計画を立てやすく、教員にとって使いやすい。 ・本文を理解するためのコラムが随所にあり、その内容が豊富なため、教員にとって人物や出来事等を詳細に教授しやすい。 ・図やグラフを多く掲載しており、教員にとって授業で活用しやすい。 (2)学習課題ごとにデジタルコンテンツ(計437)として「インタラクティブムービー」や「確認小テスト」がある等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・本文の太字に「基本用語」というマークが記されているので、復習しやすい。 ・学習課題解決に向けた見方・考え方のアドバイスがあり、主体的に取り組むことができる。 (3)本市の記載はないが、多摩地方の歴史として、「多摩地域の空襲を調べる」(立川市や東大和市)「玉川上水」を扱っている。 ・「地域からのアプローチ」で、福岡、広島など日本の諸地域をバランスよく扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成しているため、授業計画を立てやすく、教員にとって使いやすい。 ・本文を理解するためのコラムが随所にあり、その内容が豊富なため、教員にとって人物や出来事等を詳細に教授しやすい。 ・図やグラフを多く掲載しており、教員にとって授業で活用しやすい。 (2)学習課題ごとにデジタルコンテンツ(計437)として「インタラクティブムービー」や「確認小テスト」がある等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・本文の太字に「基本用語」というマークが記されているので、復習しやすい。 ・学習課題解決に向けた見方・考え方のアドバイスがあり、主体的に取り組むことができる。 (3)本市の記載はないが、多摩地方の歴史として、「多摩地域の空襲を調べる」(立川市や東大和市)「玉川上水」を扱っている。 ・「地域からのアプローチ」で、福岡、広島など日本の諸地域をバランスよく扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成し、授業の計画を立てやすいので、教員にとって使いやすい。 ・本文を理解するためのコラムが随所にあり、その内容が豊富なため、教員にとって人物や出来事等を詳細に教授しやすい。 ・図やグラフを多く掲載しており、教員にとって授業で活用しやすい。 (2)学習課題ごとにデジタルコンテンツ(計437)として「インタラクティブムービー」や「確認小テスト」がある等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・本文の太字に「基本用語」というマークが記されているので、復習しやすい。 ・学習課題解決に向けた見方・考え方のアドバイスがあり、主体的に取り組むことができる。 (3)本市の記載はないが、多摩地方の歴史として、「多摩地域の空襲を調べる」(立川市や東大和市)「玉川上水」を扱っている。 ・「地域からのアプローチ」で、福岡、広島など日本の諸地域をバランスよく扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成し、授業の計画を立てやすいので、教員にとって使いやすい。 ・本文を理解するためのコラムが随所にあり、その内容が豊富なため、教員にとって人物や出来事等を詳細に教授しやすい。 ・図やグラフを多く掲載しており、教員にとって授業で活用しやすい。 (2)学習課題ごとにデジタルコンテンツ(計437)として「インタラクティブムービー」や「確認小テスト」がある等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・本文の太字に「基本用語」というマークが記されているので、復習しやすい。 ・学習課題解決に向けた見方・考え方のアドバイスがあり、主体的に取り組むことができる。 (3)本市の記載はないが、多摩地方の歴史として、「多摩地域の空襲を調べる」(立川市や東大和市)「玉川上水」を扱っている。 ・「地域からのアプローチ」で、福岡、広島など日本の諸地域をバランスよく扱っている。	(1)見開き2ページで1単位時間を構成し、授業の計画を立てやすいので、教員にとって使いやすい。 ・本文を理解するためのコラムが随所にあり、その内容が豊富なため、教員にとって人物や出来事等を詳細に教授しやすい。 ・図やグラフを多く掲載しており、教員にとって授業で活用しやすい。 (2)学習課題ごとにデジタルコンテンツ(計437)として「インタラクティブムービー」や「確認小テスト」がある等、家庭学習を行う際の配慮をしている。 ・本文の太字に「基本用語」というマークが記されているので、復習しやすい。 ・学習課題解決に向けた見方・考え方のアドバイスがあり、主体的に取り組むことができる。 (3)本市の記載はないが、多摩地方の歴史として、「多摩地域の空襲を調べる」(立川市や東大和市)「玉川上水」を扱っている。 ・「地域からのアプローチ」で、福岡、広島など日本の諸地域をバランスよく扱っている。	
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		・小学校で学習した用語や資料には「小学校マーク」があり、各章の導入部分には「小学校」というマークをもちやすいよう、既習の歴史上の人物のキャラクター年表を掲載するなどの工夫をしている。 ・第1章では、既習学習を活用して歴史の学習に必要な見方・考え方をほたらかせる方法について考えることができるように構成している。 ・二次元コードを機器で読み取って、動画で小学校の学習を振り返ることができる工夫をしている。	・「小学社会6」のキャラクターを使用していたり、既習の歴史上の人物には「小学校」というマークをもちやすいよう、既習の歴史上の人物のキャラクター年表を掲載するなどの工夫をしている。 ・第1章では、小学校で活用した見方・考え方などを振り返ったり、中学校での学習方法について確認したりできるように構成している。 ・二次元コードを機器で読み取って、動画で小学校の学習を振り返ることができる工夫をしている。	・本文ページ脚注欄には、「小学校・地理・公民・公民科との関連」コーナーを設け、既習内容を確認しやすい工夫をしている。 ・第1章には既習の歴史上の人物や出来事をイラストでまとめている、各章の導入部には既習事項の年表を設けていたりするなど、振り返りやすい工夫をしている。	・歴史学習の導入として、第1章の「歴史を大きく変えた人物」では、小学校で学習した人物を手掛かりに時代区分を学べる配慮をしている。 ・第1章には既習の歴史上の人物や出来事をイラストでまとめている、各章の導入部には既習事項の年表を設けていたりするなど、振り返りやすい工夫をしている。	・各ページの脚注には、主に小学校の学習や歴史・公民の学習とのつながりを示す連携コーナーを設けており、小学校からの学習が確認できる配慮をしている。 ・第1編では、小学校での既習事項を多数掲載して、「カード当てゲーム」で既習内容を振り返ったりできる工夫をしている。	・序章では、小学校で学習した歴史上の人物や小学校で学習した人物や出来事、文化遺産を学ぶことができる。 ・各章の導入部では、小学校で学んだ人物を中心に時代の流れの見通しをもてる工夫をしている。	・序章には、歴史の流れを振り返るため小学校で学んだ人物をイラストでまとめている、「歴史人物Q&Aカード」の学習を通して、既習内容を復習したりできる配慮をしている。 ・各章の導入部では、小学校で学習した内容を「歴史絵巻」にまとめており、時代の流れが見やすい工夫をしている。	・歴史学習の導入である「歴史の案内」では、小学校で学習した人物と文化について、「歴史カード」を作成することを通して、既習学習を振り返ることができる工夫をしている。	・歴史学習の導入である「国史を学ぶにあたって」では、小学校で学習した人物と文化について、「近代のまとめ」に「ディベートをしてみよう」というページを設定しており、協動的な学びを促している。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例示は、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協動的な学び」の充実に向けて等		・各章のまとめに様々なパターンでの振り返りやまとめの方法を紹介しているため、協動的な学びを行うことができる。 ・二次元コードの読み取り先にさまざまな思考ツールが用意されており、ICTを活用した協動的な学びができる。	・ページ中のコラムなどにある「学びリンク」で二次元コードを読み取ると、動画や学習の内容の定義を図るための確認テストや関係機関のウェブサイト等につながる。 ・章のはじめに写真を用い、様々な気付きを出し合えることができる。	・各章のまとめに「ほかの人と話し合っ」て「章の問い」を考察しよう」というコーナーがあり、協動的な学びを促している。 ・二次元コードを読み取ると「思考ツール」のコンテンツがあり、ICTを活用した協動的な学びができる。	・博物館や資料館のウェブページにつながる二次元コードを掲載している。 ・「歴史を考えよう」というコーナーで課題を話し合い、考えを深めることができる。	・すべての見開きページに二次元コードがあり、小テストのページにつながるため、個別最適な学びが充実する。 ・各編の導入部にさまざまな資料から「気づいたことを出さう」と協動的な学習を促し、各編の問いや見通しにつながる工夫をしている。	・二次元コードは無いが、各ページの最後に「チャレンジ」として課題を設け、個別最適な学びを促している。 ・各章のまとめに「対話とまとめ図」のページを設けて、対話から章の内容を振り返る構成となっている。	・章のはじめに二次元コードを掲載し、教科書会社のウェブページにつながるため個別最適な学びを深めることができる。 ・各章のまとめの最後にその時代がどんな時代だったかをまとめ、「話し合ってみよう」で協動的な学びを促している。	・二次元コードは無いが、他の教科書では用いないような資料等が豊富に掲載されており、より興味を深めることができる。 ・章のまとめの「グループワークで発表しよう」で、協動的な学びを促している。	・二次元コードは無いが、他の教科書では掲載されていない資料等が豊富に掲載されており、より深く学ぶことができる。 ・近代のまとめに「ディベートをしてみよう」というページを設定しており、協動的な学びを促している。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 社会(公民)（1／1枚目）

発行者名 調査の観点	東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。 ・各章に「導入の活動」を設定し、章の学習の見通しをもつことができるよう、配慮している。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。 ・各章に「学習のはじめに」を設定し、章の学習に見通しをもつことができるよう、配慮している。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。 ・各章の導入として「学習の前に」を設定し、小学校や地理的分野・歴史的分野での学習をふまえて考えられるよう、配慮している。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。 ・各章の導入として「学習のはじめに」を設定し、章の学習に見通しをもつことができるよう、配慮している。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。 ・漫画の引用やアニメに関する資料が掲載されている等、興味・関心をひくように配慮している。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 ・学習指導要領に示された目標及び内容を網羅している。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。 ・各章に「章の入り口」を設定し、章の学習を考えるきっかけとなる話題を扱う等、配慮している。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 ・学習を貫く探求課題を立て、本文ページで追求し、「みんなでチャレンジ」「見方・考え方」を通し、章末のまとめ活動で解決を目指す構成であり、生徒自身が課題をつかめる。 ・対話的な学びを実現する課題（「みんなでチャレンジ」）は質量共に、よく練られている。 ・章末に思考ツールの活用について掲載している。 これらの工夫により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。 ・課題も資料も豊富で十分な分量である。	(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 ・各章のはじめにある「ウォーミングアップ！公民」は、生徒が単元を貫く問いを明確に捉えることができる。 ・「公民の技」は、個人やグループでの活動を通じて、公民の学習で身に付けたい技能や表現力を養うコーナーとなっている。 ・「公民にアプローチ」では、メディア活用、思考ツールを活用した情報整理、プレゼンテーションの仕方を特集している。 これらの工夫により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。 ・課題も資料も適切な分量である。	(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 ・毎時間、対話を促し思考を広げる簡単な課題「対話」がある。 ・現代社会の見方・考え方を働かせて、自分の意見をまとめる、他者と意見交換したりしながら学びを深められる特設ページ「アクティブ公民AL」、コラム「アクティブ公民」を掲載している。 ・巻頭9に思考ツールの紹介、5部ではレポート作成方法等の特集がある。 これらの工夫により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。 ・課題も資料も豊富で十分な分量である。	(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 ・「アクティビティ」では、深い学びを実現するために、説明させる課題や、話し合いの課題等を数多く設けている。 ・「チャレンジ公民」では、社会の課題を考察・構想させている。 ・毎時間、課題解決の手がかりとなる主な「見方・考え方」を示している。 ・章末のまとめでは、思考ツールを活用した課題を設けている。 これらの工夫により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。 ・課題も資料も適切な分量である。	(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 ・「アクティブに深めよう」では、話し合いの課題を設け、生徒が学習を振り返りながら考えを整理することができる。 ・各章末の「学習の発展」では、記述でまとめる課題を設けている。 ・毎時間設定されている「探求」では、説明させる課題や、話し合わせる課題を設けている。 ・社会科のまとめで、レポートを作成する課題がある。 これらの工夫により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。 ・資料や課題は精選され、ゆとりのある分量である。	(1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 ・章扉で学習内容を概観し、章の「入り口」で課題をつかみ、本文ページ、特設ページで課題について調べ、章末で課題についてまとめる・表現するという構成である。 ・毎時間設定されている「探求」では、説明させる課題や、話し合わせる課題を設けている。 ・社会科のまとめで、レポートを作成する課題がある。 これらの工夫により、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮している。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。 ・課題も資料も適切な分量である。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 ・社会科の重要な概念の説明を簡潔に記載している。また、読み方が難しい語句にふりがなが付いており、読みやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用していて文字が読みやすい。また、グラフや地図、写真や図等もカラーユニバーサルデザインに全面的に対応しており、色覚の個人差に関わらず分かりやすい。	(1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 ・具体的な例を用いて説明しているものが多い。また、社会科特有の用語にはふりがなが多く付いており、読みやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。 ・文字はユニバーサルデザインフォントによる黒文字を用いていて見やすい。また、資料等がカラーユニバーサルデザインに基づいて作成されており、見やすい。	(1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 ・具体的な例を用いて社会科の概念を説明している、また、多くの語句にふりがなが付いており、読みやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。 ・文字や資料にユニバーサルデザインフォントが使用されており、見やすい。また、カラーユニバーサルデザインで色数が多い紙面構成だが資料が色で囲まれていてどこまでが同一の資料が読み取りやすい。	(1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 ・社会科の重要な概念を丁寧に説明している。また多くの語句にふりがなが付いており、読みやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。また、カラーユニバーサルデザインに基づいた写真や資料をととても見やすく配置している。	(1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 ・社会科の重要な概念を丁寧に説明している。また、読み方が難しい語句にふりがなが付いており、読みやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。 ・写真や資料が大きく見やすい。また、全体的に色数が抑えられた紙面構成である。	(1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 ・社会科の重要な概念を表でまとめたり、簡潔な文章で説明している。また、全体的に平易な文章で説明しており、読みやすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用している。グラフや地図等の資料については、色覚の個人差に関わらず識別しやすい色を使用している。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 ・単元を貫く探求課題に段階的に取り組めるよう構造化しており、学習の流れがつかみやすくページを構成している。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・単元の最後に、自らの学習状況を振り返ることができる課題を評価の観点ごとに分かりやすく掲載している。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・国内外のさまざまな地域の写真や資料をバランスよく配置している。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 ・「見方・考え方」を導入ページで紹介し、本時の中でその「見方・考え方」を活用して考えさせたい問いかけにマークを表示している。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・単元の最後に自ら振り返りを学習したステップに分けて行うことができる。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・ほとんどの資料に、地域の説明があり、幅広くさまざまな地域を紹介している。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 ・単元の最初や途中に、具体的に、詳細な例を用いた学習活動の掲載や、社会参画を意識した本文記述をしている。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・単元の最後に、学習の振り返りのページをコンパクトに構成している。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・サイズの大小のメリハリをつけながら、さまざまな地域の写真や資料をバランスよく配置している。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 ・単元貫く問いを立て、見開きごとに「見方・考え方」を示し、思考の流れを重視している。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・単元の最後に、評価の観点ごとに振り返りを行うまとめのページがある。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・日野市の祭り等、多摩地区の写真も見られる。また、伝統的工芸品を扱ったページ等は日本各地のものをバランスよく紹介している。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 ・「アクティブに深めよう」等、グループワークで活用できるページがある。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・単元の最後に重要語句の一覧を掲載している。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・日野市の祭り等、多摩地区の写真も見られる。また、伝統的工芸品を扱ったページ等は日本各地のものをバランスよく紹介している。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 ・公民の学習の流れについて、紙面構成を工夫し、本文見開きで「つかむー調べるーまとめる・表現する」というつくりをしている。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・単元の最後に簡潔に学習内容をまとめるページを設けている。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・国内外のさまざまな地域の写真や資料をバランスよく配置し、共生社会の欄に八王子市の留学生の写真に掲載している。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	・各章の導入ページに「小学校の社会で習ったことば」を掲載し、小学校の社会の学習と中学校の学習のつながりを図示しており、分かりやすい。 ・小学校社会科の教科書に掲載している資料にマークがついているため、既習事項を生かしやすい。	・巻頭に学習の進め方があり、小学校の教科書の巻頭と共通しているため、分かりやすい。 ・他分野や他教科で扱いのある内容を紹介しており、横断的な学習を深めやすい。	・「小地歴」アイコンを設けることにより、小学校で学習した内容を確認できる。 ・巻頭7ページ目に小学校の社会科で学んだ事柄が中学校社会科とどうつながっているかの図があり、分かりやすい。	・各章の導入ページで、単元の内容のうち、小学校社会科で取り扱った内容を「小学校で学習した内容」としてまとめており、振り返りがしやすい。	・各章の導入ページで、各章の学習の内容のうち、小学校社会科で取り扱った内容を簡潔に示しており、振り返りがしやすい。	・各章の導入ページで「小学校で学んだことを覚えていますか？」という言葉と共に既習の用語を書いており、振り返りがしやすい。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	(1)二次元コードについて ・二次元コードを各ページの定位置に掲載しており扱いやすい。 ・教科書の内容に沿った構成であり、豊富で充実しており、学びを広げやすい。 ・生徒にとって分かりやすい動画である。 ・確認問題は、答えを選ぶ形式で取り組みやすい。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・用語解説は個々の復習に適しており、統計資料や思考ツール、活動ツールは協働的な学びを深めやすい。	(1)二次元コードについて ・二次元コード「学びリンク」を掲載し、充実している。 ・動画は生徒にとって分かりやすい。 ・リンクの一番下に各単元の問題を配置しており、教科書と同じページ構成のため、生徒にとって分かりやすい。 ・確認問題は、答えを選ぶ形式で取り組みやすい。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・用語解説や図解アニメーション等、学習の進度に合わせて理解できる工夫をしているため、使いやすい。	(1)二次元コードについて ・二次元コードを随所に掲載し、充実している。 ・動画は生徒にとって分かりやすい。 ・コンテンツの量を豊富に用意していて、学びを広げやすい。 ・振り返り問題は、PDF形式のワークシートで取り組みやすい。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・学習内容に関する動画や資料、復習問題など個々の学びに適しており、思考ツールは協働的な学びを深めやすい。	(1)二次元コードについて ・二次元コードを各ページの定位置に掲載し、扱いやすい。 ・「確認小テスト」は、四択問題で取り組みやすい。 ・「関連資料」「動画」は量が精選され、調べやすい。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・学習内容に関するスライドや関連資料等、デジタルコンテンツが充実していて、生徒の実態に応じて取り組みやすい。	(1)二次元コードについて ・「デジタルコンテンツの活用」を設けていない。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・各章のまとめに「アクティブに深めよう」のコーナーがあるため、協働的な学びにつながりやすい。	(1)二次元コードについて ・各章の始めに二次元コードを定位置に掲載している。 ・「各章共通のリンク情報」は、省庁のホームページにリンクして調べやすい。 ・単元に関係のある動画は、すべてNHK for Schoolの動画で分かりやすい。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・学習内容に関する動画を閲覧したり、情報を収集したりすることができるので、生徒が自学自習に取り組むやすい。

種目 数学（1／1枚目）

発行者名 調査の観点	東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館	数研出版	日本文教出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)正負の計算では、計算の規則を公理的に示しており、小学校からの拡張であることを示しているとともに、関数的な見方にもつながるよう配慮している。数量や図形の性質において統合的な見方ができる構成になっており、前後のつながりを意識できる。 (2)小学校からの流れで最初の章は整数を扱っている。	(1)例題を段階的に組んでおり、数学的な見方・考え方をする上での配慮をしている。他教科とつなげることで、教科横断的な学習への取組を図っている。 (2)小学校からの流れで最初の章は整数を扱っている。	(1)節ごとに「目標」を定めており、見通しをもって学習できる配慮をしている。例題ごとに注釈があり、どのような見方や考え方が必要かを示している。 (2)章末問題が「基本」「応用」「活用」の3段階の問題構成になっており、理解度に応じた取組ができる。	(1)問題を解く際の手順を、強調していて、見通しをもって取り組める。注釈に、その性質を考えるために必要な、数学的な見方・考え方を示している。 (2)小学校からの流れで最初の章は整数を扱っている。各章で必要な既習事項を、1ページにまとめている。	(1)数学の概念や法則などをいろいろな視点からアプローチしており、数学的な表現力を養うための一助となっている。 (2)巻末に小学校の既習事項をまとめている。既習事項の振り返りがあるため、つながりを意識しながら学習できる。	(1)対話形式で表現しており、自ら課題を見つけ、解決していく力を身に付けられる。巻末に、自己評価シートがある。 (2)各章で必要な既習事項を、1ページにまとめている。	(1)巻末に「対話シート」があり、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けるための活動を促す構成である。 (2)小学校からの流れで最初の章は整数を扱っている。章の始めに、これまでに学んだことの確認やその章で学ぶポイントを記している。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)学習内容ごとに、深く考えたり、話し合ったりするための問題提起があり、対話的な活動を促す工夫をしている。 (2)第1学年において数学的活動に関する付録がある。全学年で学びの振り返りや見通しをもつための資料を収めている。	(1)教科書内の登場人物同士で意見を交換する場面が多く見られ、どちらの意見を学習に取り入れると良いかなど話し合い活動を促す工夫をしている。 (2)巻末にまとめ資料があり、振り返りができる。第1・第3学年では数学的活動に関する付録がある。	(1)単元の最初に問題が提示され、それについて考え、話し合うように促している。 (2)章末問題が各学年充実している。巻末資料には、他教科との関連性に触れる内容や、第3学年では高校数学の内容に関連したものを記述している。また、第1学年では錐体と柱体の体積の関係を視覚的に理解することができる紙模型がある。	(1)学習内容を利用して、日常の場面で数学的に考えることができる工夫をしている。見方・考え方を働かせて欲しい場面には、羅針盤マークを記載している。 (2)第1学年と第3学年において、学習内容を視覚的に理解できる付録を収めている。	(1)学習のとびらの中に、言語活動のコーナー「説明しよう」や「話し合おう」などを配置し、対話的な活動を促す問を、設定している。 (2)各章の練習問題や章末問題の量が多い。巻末の「数学広場」では、基礎から応用までの問題を掲載している。	(1)例題に加えて、学習の中でより大事にしたい発問をすることで、学んだことの理解を深めることができる構成である。 (2)練習問題、章末問題は適正量である。巻末に、チャレンジ問題があり、教科書の問いを一步発展させた構成になっている。第2学年以降では、第1学年からの学習の流れとまとめを記したページがある。	(1)各単元の練習問題に、自分の解き方の説明を促す記載があり、対話的な学習ができる構成である。また、対話やその課題についてまとめることができるワークシートが添付されている。 (2)第1学年と第3学年において、学習内容を視覚的に理解できる付録が収められている。各単元のはじめに小学校や全学年の復習を掲載しており、必要に応じて活用できる。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1)キャラクターの吹き出しの形で、考えるヒントを示している。振り返るべき点や要点をまとめている。 (2)落ち着いた配色で見やすくなっている。複数の線がある場合、太さを変えて区別しやすくなっている。	(1)単元ごとに目当てを明記している。各ページの行数が多く、記載内容も多くなっている。 (2)巻末に、その内容が実生活のどのような場面で活かされているのかを記載している。落ち着いた配色で見やすくなっている。	(1)例題の解き方を記載していて、ノートに記載する際の参考になる。小單元ごとの目標を明記している。 (2)ページ内の配色が濃くて印象に残りやすい。	(1)各章の利用のところで、学びのプロセスを明記し、問題解決の流れをつかみやすい。 (2)各章の扉絵があり、巻末にその章と関連する説明をしている。落ち着いた配色で見やすくなっている。	(1)誤答の例を示していて、気をつけてほしい点がわかりやすい。 (2)落ち着いた配色で見やすくなっている。一目で紙面構成が理解できるよう、シンプルでメリハリのある紙面構成をしている。	(1)問題解決の流れが、キャラクターの吹き出しの形で示されている。 (2)使われている色が多い。それぞれのページに余白が多くゆとりがある。	(1)小単元のめあてを明記している。 (2)落ち着いた配色で見やすくなっている。複数の線や帯グラフの色や形を変えて区別しやすくなっている。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)デジタルコンテンツが充実している。導入では学習内容を想像しやすい動画、ワークシートが作成されており、視覚的にわかりやすい工夫をしている。演習問題をフラッシュカード形式で復習できる。解き直しをしやすい工夫もしている。 (2)デジタルコンテンツを利用して、演習問題のヒントを見ることができ、家庭での個人学習の際に役立つ。フラッシュカード形式で学習できる演習問題があり家庭学習で利用しやすい。 (3)日本の地理や都道府県ランキング等を題材に数学的な見方・考え方を働かせる。	(1)1時間あたりの学習内容を、めあて、例題、問題、発展の順に記載している。高校数学の内容も記載しており、学びに向かう興味・関心を高める工夫をしている。 (2)各単元に「プラス・ワン」という追加問題を記載しており、学習内容の理解度を確認できる。第3学年の平方根では、さまざまな解き方をそれぞれの登場人物の考えとして記載しており、家庭学習の際に考えの幅を広げやすい工夫をしている。 (3)各都道府県の建物や遊園地のアトラクションを題材として、数学的な思考を促している。	(1)各単元の目標を記載しているため、板書と教科書を結び付けて使いやすい。巻末に章を振り返るページを設けており、学習を進めやすい構成である。最終ページにはプログラミングを作成できるサイトとその利用方法を記載している。 (2)二次元コードで、家庭学習の際も視覚的に学ぶことができる。章末問題にも二次元コードがついている。イラストや図も多く、想像がしやすい構成である。 (3)特に図形の単元では、実際の建物の写真や風景を具体例としてあげ、一般的な図形の考え方につなげている。	(1)章のはじめに「学習する前に」、章の終わりに「学習のまとめ」を掲載しているので、章全体がつながり、指導過程の確認ができる。知識・技能を活用する場面に「学びのプロセス」を記載し、問題発見・解決の過程を意識付ける。 (2)既習事項や、間違いやすい例について記載があり、家庭学習の際の参考になる。 (3)空間図形では、実際の建物の写真を例に挙げ、一般的な図形の考え方につなげている。	(1)新出用語の記載が見やすい。第1学年、第2学年の関数について表、グラフ、式との関連付けがしやすいまとめ方をしている。基本的に例題→問題の構成になっているため、学習を進めやすい。 (2)章末問題が「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」と問題の難易度別に分けられているため、個人の理解度に合わせて取り組みやすい。 (3)日本各地の特徴的な建物や観光地、風景を具体例に挙げ、数学的な問題につなげている。	(1)各章のはじめに、関連する既習事項の振り返りのページがある。例題に対して解答例を複数記載している。式変形の過程の記述は明快である。 (2)式変形の説明をしているので、家庭学習でも振り返りがしやすい。二次元コードで家庭でも反復練習ができる。 (3)日本各地の実際の建物や風景の写真を用いて具体例を挙げ、数学的な思考・発想を促している。	(1)各単元ごとにめあてが記載されている。多くの問題で「ためす」「みる」と書かれた二次元コードがあり、視覚的に説明する際の補助となる。 (2)「誤答に注意」の記載があり、家庭学習で復習すべき内容がわかりやすい。また、ICTコンテンツを利用してシュミレーションを行うことができる工夫をしている。 (3)表紙裏ページの国内の海岸線や競技場を、後の発展問題と結び付け、数学的な思考を促している。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	・第1学年の目次で、それぞれの単元に関連する算数の単元が記載されている。 ・素数の導入では、問題に小学校から馴染みのある九九表を使っている。 ・「数学の目でふり返ろう」のコーナーでは、算数とのつながりが記されている。 ・巻末に「学びのベース」というページを設け、算数のまとめを掲載している。(4ページ)	・第1学年目次で、それぞれの単元に関連する算数の単元を記載している。 ・素数の導入では、タイルの敷き詰め問題を設定し、小学校から進学したばかりの生徒にも考えやすい。 ・巻末に「小学校算数のふり返り」というページを設け、それらに関する問題を掲載している。(6ページ)	・第1学年目次で、それぞれの単元に関連する算数の単元を記載している。 ・「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のそれぞれの章の導入で、「ふり返り～算数から数学へ～」と題したページを1ページ掲載している。 ・巻末に「小学校の計算」というページを1ページ設けている。	・第1学年の目次で、各単元に関連する算数の単元名を記載している。 ・素数の導入のタイルの敷き詰め問題は、算数と関連させやすい。 ・巻末に「小学校算数 計算のふり返り」というページを1ページ設けている。 ・巻末に「学びのマップ」というページを設け、中学校数学とのつながりを示している。さらに小学校算数のポイントを掲載している。(8ページ)	・各章に適宜、「ふりかえり算数」を配置して、算数の内容を確認している。 ・「ひろげよう」のコーナーでは、算数で学んだ内容を使ってできる問題がある。 ・巻末に「学びをふりかえり」というページを設け、要点と練習問題、二次元コードを記載している。(6ページ)	・各章の導入で「ふりかえり」というページを設け、関連する算数の学習内容を記載している。 ・巻末に学習のまとめとして、各章のまとめと関連する小学校算数の内容を記載している。(8ページ)	・第1学年目次で、それぞれの単元に関連する算数の単元を記載している。 ・各章の前に「次の章を学ぶ前に」というページを設け、算数の学習内容での練習問題を記載している。 ・各章の導入で「小学校では～」と小学校の学習内容に触れている。 ・巻末に「算数の確かめ」というページを設け、要点と練習問題を掲載している。(5ページ)
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	(1)(2)二次元コードを読み取ると、追加問題に取り組めるようになっており、個別最適化の配慮をしている。デジタルコンテンツが充実していて、家庭学習にも使える形になっている。数学の学習アプリケーションへのリンクがあり、個別最適な学びを促している。	(1)(2)二次元コードを1つにまとめている。二次元コードを読み取ると、説明動画が見られる。また、アプリケーションを使って統計グラフを作ったり、視覚的に理解したりできるようになっている。また、外部リンクもあり、関連するページへつながることもできる。個別最適な学びに対応している	(1)(2)二次元コードを読み取ると、教科書の各単元別の復習・確認ができる総合ページが開く。数学に関する質問をチャット欄に書き込むと、生成AIが回答するコーナーがあり、学習補助に対する配慮がなされている。個別最適な学びが実現できるよう配慮している。	(1)(2)表紙にも二次元コードが付いており、表紙絵と関連した動画が視聴できる。第3学年の教科書には高等学校の学習内容を示しており、中学校で学習した内容を発展的に考えるように促している。家庭等で個別最適な学習を進める支援として活用できる。	(1)(2)二次元コードを読むと、教科書と連動した補充問題を用意しており、解答は途中式や丁寧な解説が付いているので、家庭学習で取り組みやすい。章末問題の確認が、テスト形式で回答できる。個別最適な学びができるよう配慮している。	(1)(2)二次元コードを読み取ると、問題に合わせて、復習・反復・難問の3段階のうち1つのドリルに取り組めるようになっている。また動画や、実験のシミュレーションを行えるコンテンツもある。過去の入試問題も充実している。個別最適な学びに対応できるようになっている。	(1)(2)複数の二次元コードによって単元に関連する身近な内容を調べたり、図形や関数などを視覚的に学習したりすることができる。コンテンツを使う教材の近くに二次元コードを掲載している。個別最適な学びに適した配慮をしている。

種目 理科（1／1枚目）

発行者名 調査の観点	東京書籍	大日本図書	学校図書	教育出版	新興出版社啓林館
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)「目標及び内容の抑え方」 ・学びを活かしてさらに活用するための課題を豊富に提示しており、主体的に学びを深めていくための工夫をしている。また、対話的な学習を多く取り入れる工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階に対する配慮」 ・「探求の流れを確認しよう」「教科書の使い方をおさえよう」の内容が、各学年によって変わっており、発達段階に応じた配慮をしている。 ・「社会につながる科学」というコラムの内容が、学年が上がるにつれ、職業選択につながる内容が増えている。	(1)「目標及び内容の抑え方」 ・各実験の際に、「目的」だけでなく「着目点」を示すことで理科の見方・考え方をわかりやすく働かせて問題を解決していくことができる工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階に対する配慮」 ・「理科の学習の進め方」というページを設定しており、その内容を3つの学年ですべて統一している。 ・単元の配列は、1分野と2分野を区別することなく、観察・実験のしやすい時期、学年によって理科室の使用が重ならないこと、発達段階などに配慮して、3年間の理科学習が無理なく円滑に進む工夫をしている。	(1)「目標及び内容の抑え方」 ・探求を深める工夫や、対話的な学習を行うための工夫が多く見られ、理科の見方・考え方を働かせながら主体的な学びをすすめる際の観点がわかるように工夫している。 (2)「生徒の発達段階に対する配慮」 ・「なぜ理科を学ぶの？」という教科書の導入が、各学年の発達段階に応じた内容のマンガ風読み物になっており、生徒の興味を引きやすい。 ・「どうする、探求の進め方」「どうする、レポート」の内容を、全学年で統一し、繰り返しの定着を図りやすい構成である。	(1)「目標及び内容の抑え方」 ・疑問から課題を決め、仮説・計画・実験・考察と探求のすずめ方をわかりやすく示しており、理科の見方・考え方を働かせながら問題を解決していくことができる工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階に対する配慮」 ・各学年の巻頭に「探求の進め方」を折り込みで配置することで、本文のどのページからでも参照でき、学習段階の確認ができる。 ・第1学年では図版が大きく、数も多いが、学年が上がると、小さくなり、文字による説明が増える。	(1)「目標及び内容の抑え方」 ・付属の探Qシートを活用することで理科の見方・考え方を働かせながら問題解決ができ、探求の過程を何度も繰り返すことができる工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階に対する配慮」 ・表紙裏の言葉が、各学年の教科書によって異なっており、その学年で必要とされる資質・能力が分かりやすくなっている。 ・「部活ラボ」等のコラムで、理科の有用性がわかりやすい。 ・「なるほど」では、間違いやしやすいことや勘違いしやすいことを正しく理解することができるよう情報提供されている。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮」 ・すべての単元や節の導入でイラストを使うことで、単元で学ぶべき内容と日常生活につながるイメージをもちやすくなる工夫をしている。 ・節中や単元末には学んだことを日常生活や社会につなげる読み物や活動を設定している。 (2)「生徒の発達段階を十分に配慮した分量について」 ・AB判で、読みやすい紙面になっている。標準時間で十分指導できる分量である。 ・各単元の学習内容の関連性や教材の入手時期などをもとに、学年ごとに最適な単元の並びで構成している。第1学年の記載順 生命→物質→エネルギー→地球 ・「じっくり探求」の節を配置し、問題発見から活用までを詳細に設定し、探求を意識した学習の深化を図れる。	(1)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮」 ・主体的に実験・観察ができるように、手順を丁寧に記述し、主体的な学びにつながる工夫をしている。 ・各単元の最後に、そこで学習したことを活用して探求的に課題を解決していく「探求活動」を設け、学びを深める工夫をしている。 ・対話の場면을掲載したり、随所に「話し合おう」のマークを設けたり、対話的な学びを促す工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階を十分に配慮した分量について」 ・B5判のコンパクト版であるが、ページ数を多くとることゆとりのある読みやすい紙面である。標準時間で十分指導できる分量である。 ・各単元の学習内容の関連性や教材の入手時期などをもとに、学年ごとに最適な単元の並びで構成している。第1学年の記載順 生命→物質→エネルギー→地球	(1)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮」 ・単元のはじめに、既習事項を記述し、今までの学習内容とつながる工夫をしている。 ・コラム「理路整然」を活用することで、実験結果や考察内容をより深め、「主体的・対話的で深い学び」になる工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階を十分に配慮した分量について」 ・AB判で、ゆとりのある読みやすい紙面である。標準時間で十分指導できる分量である。 ・各単元の学習内容の関連性や教材の入手時期などをもとに、学年ごとに最適な単元の並びで構成している。第1学年の記載順 生命→物質→エネルギー→地球 ・実験・観察のページに、ステップが見やすく明示され、今、自分がどの段階のことを学習しているのか、分かりやすく記載している。	(1)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮」 ・どのように学ぶかを各学年の巻頭で「自然の探求」「探求の進め方」というページを設け、深い学びへの道筋を示している。 ・学習の前後で「学習前の私」と「学習後の私」の同じ問いかけにより、学習を通した自身の成長のメタ認知を促し、主体的で深い学びを引き出す工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階を十分に配慮した分量について」 ・AB判で、ゆとりのある読みやすい紙面である。標準時間で十分指導できる分量である。 ・基礎的、標準的な内容に特化しており、生徒の発達段階に合わせた分量と構成である。 ・標準的な単元配列を基本としつつ、それぞれの単元は独立構成で、指導順を組み替えて学校や地域の実態に応じた指導計画を立てられる配慮をしている。第1学年記載順 生命→物質→地球→エネルギー	(1)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮」 ・巻頭に探求のガイダンスを設け、主体的・対話的な探求の過程を通じた学習活動を示している。 ・巻末に「探Qシート」を設け、生徒が書いてから話し合うことで、主体的・対話的で深い学びを実現する工夫をしている。 ・単元末の「みんなで探Qクラブ」では、新たな探求を行うための課題を提示し、習得した知識・技能を活用して、より学びが深まる工夫をしている。 (2)「生徒の発達段階を十分に配慮した分量について」 ・AB判で、二次元コードを随所に配置し、主体的で深い学びを育む工夫をしている。標準時間で十分指導できる分量である。 ・どの単元から始めても支障がないよう構成している。そのため単元に番号を付けておらず、指導順の入れ替えがしやすい。第1学年の記載順 生命→地球→物質→エネルギー
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1)「生徒にとって読みやすい表現か」 ・ユニバーサルデザインフォントが使用され、さらにカラーユニバーサルデザインを使用して、色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすいように配慮している。 ・第1学年の本文は、第2学年、第3学年よりも大きな文字を採用している。 ・学習の結論・課題が太字で四角に囲まれていて、重要な部分を視覚的に強調している。 ・実験・観察の注意点を強調していて、安全性に配慮している。 ・紙質を軽いものにして軽量化している。 (2)「印刷、写真、挿絵、図形等」 ・写真・挿絵・図形等のイラストが見やすく、実験・観察の図については写真を使うことで、操作や実験結果のイメージがもちやすい。	(1)「生徒にとって読みやすい表現か」 ・ユニバーサルデザインフォントが使用され、さらにカラーユニバーサルデザインを使用して、色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすいように配慮している。 ・誰にでも見やすくわかりやすい色使いやレイアウトなどに配慮し編集している。 ・第1学年の本文は、第2学年、第3学年よりも大きな文字を採用している。 ・実験・観察の注意点を強調しており、安全性に配慮している。 ・生徒の負担に配慮し、軽量な紙を使用している。 (2)「印刷、写真、挿絵、図形等」 ・写真・挿絵・図形等を実験の手順や結果に沿って掲載し、明瞭化している。	(1)「生徒にとって読みやすい表現か」 ・ユニバーサルデザインフォントが使用され、さらにカラーユニバーサルデザインを使用して、色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすいように配慮している。 ・全ページに多言語変換に対応した二次元コードを掲載し、ウェブサイトで変換された教科書紙面が見られる工夫をしている。 ・第1学年の本文は、第2学年、第3学年よりも大きな文字を採用している。 ・実験・観察の注意点を強調し、安全性に配慮している。 (2)「印刷、写真、挿絵、図形等」 ・写真・挿絵・図形等について実物の実験の写真を用い、操作や実験結果のイメージをもちやすい。 ・巻末補充資料のページ数が多く、内容も充実している。 ・単元扉の写真がダイナミックで文字が邪魔をしていない。	(1)「生徒にとって読みやすい表現か」 ・ユニバーサルデザインフォントが使用され、さらにカラーユニバーサルデザインを使用して、色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすいように配慮している。 ・実験・観察の注意点を強調し、安全性に配慮している。 ・第1学年の本文は、第2学年、第3学年よりも大きな文字を採用している。 ・実験・観察の注意点を強調しており、安全性に配慮している。 ・生徒の負担に配慮し、軽量な紙を使用している。 (2)「印刷、写真、挿絵、図形等」 ・写真・挿絵・図形等を実験の手順や結果に沿って掲載し、明瞭化している。	(1)「生徒にとって読みやすい表現か」 ・ユニバーサルデザインフォントが使用され、さらにカラーユニバーサルデザインを使用して、色覚の個人差を問わず、より多くの人が見やすいように配慮している。 ・図や写真を紙面上部に集めることで、視覚的に対象物を認知しやすくしている。 ・第1学年の本文は、第2学年、第3学年よりも大きな文字を採用している。 ・実験・観察の注意点を強調し、安全性に配慮している。 ・生徒の負担に配慮し、ページ数を減らし軽量化している。 (2)「印刷、写真、挿絵、図形等」 ・写真・挿絵・図形等を実験の手順や結果に沿って掲載し、明瞭化している。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)「教員にとっての使いやすさ」 ・観察・実験の手順の過程をラインごとに示し、見通しをもって行えるようにしているため指導しやすい。 ・指導時数の目安が見開きで1時間となっており、指導計画が立てやすい。 ・巻頭の「探求の流れと教科書の使い方」では、探求の過程や考察、話し合い活動について記述されており、指導しやすいつくりになっている。 (2)「家庭学習への配慮」 ・単元末に演習問題として「確かめ問題と活用」を設け、巻末に解答を記載しているため、生徒の自己採点が可能である。 ・地域や歴史について、漫画風にすることで、生徒が読みやすく、興味関心が高まる。 (3)「地域性」 ・「力の世界」の力がはたらいていると考えられる現象の例で東京オリンピック2020の写真に掲載している。(第1学年) ・「化学変化と原子・分子」の単元扉2ページに見開きで、東京都墨田区の夜空に上がる花火を掲載している。(第2学年)	(1)「教員にとっての使いやすさ」 ・観察・実験の目的、着目点や結果からわかる考察も分かりやすく書いており、若手教員にとっても使いやすい。 ・各単元の学習内容が年間指導計画に割り当てやすい。 ・身近な生活と理科の学習の関連付けとして、「つながる×くらしの中の理科」が掲載されていることで、理科の日常性を説明しやすい。 (2)「家庭学習への配慮」 ・自学自習がしやすいように、出てくる問題演習の解答をすべて巻末に掲載している。 ・単元末に演習問題として「読解力問題」を設けており、学習の定着を図ることができる。 (3)「地域性」 ・「住宅での太陽光発電」として東京都八王子市の写真を掲載している。(第3学年) ・「大地の変化」の単元内の自然の恵みと災害のページに、東京都国分寺市の殿ヶ谷戸庭園の湧水、東京都世田谷区の等々力渓谷を掲載している。(第1学年)	(1)「教員にとっての使いやすさ」 ・巻頭の「なぜ理科を学ぶの?」「理路整然」では、理科の学ぶ目的や学び方を記述しており、指導しやすい工夫をしている。 ・巻頭の探求の進め方を各実験・観察のページでも見やすく記載しており、道筋を立てて考察までたどり着きやすい工夫をしている。 (2)「家庭学習への配慮」 ・巻末の演習問題に、入試対応・学力調査対応の問題を掲載しており、生徒自身が学力定着を確認しやすい。 ・単元末に学んだことを活用して、身近な問題を考えさせる内容を掲載しているため、学んだ知識を定着しやすくなっている。 (3)「地域性」 ・「夏のような」のアスファルトの上の陽炎において東京都江戸川区の写真に掲載している。(第2学年) ・第三章「電池とイオン」の扉ページに東京都江東区の水素ステーションの写真を掲載している。(第3学年)	(1)「教員にとっての使いやすさ」 ・探求のすずめ方を簡単なフローチャートと各ステップに分け、イラストを用いて4～7ページにわたって詳細に記載している部分が指導に活かしやすい。 ・巻末に基礎技能についてのまとめを記述しており、教師が指導しやすい内容になっている。 ・「広がる科学の世界」が各単元にあり、その単元で学んだ知識が日常生活に結び付けられるようになっており、理科の日常性を説明しやすい。 (2)「家庭学習への配慮」 ・重要用語の説明の後に教科書のページを記載しており、生徒が振り返りやすい構成になっている。 ・単元末に学んだことを活用して、身近な問題を考える内容を掲載していることで、学んだ知識が定着しやすくなっている。 (3)「地域性」 ・「地層のでき方」の地層ができるまでの流れの一部として、東京都府中市を流れる河川の写真に掲載している。(第1学年) ・「四季の天気」の発達した積乱雲において東京都の空の写真を掲載している。(第2学年)	(1)「教員にとっての使いやすさ」 ・各章で問いかけの文章があり、教師が導入しやすいつくりになっている。 ・小単元ごとに学習課題と考えてみようを掲載しており、課題と目的を教師が掲示しやすい。 ・巻末に「探Qシート」として実験・観察をレポートとして提出できるように工夫されており、指導に便利である。 (2)「家庭学習への配慮」 ・章末の「Reviewふり返ろう」では、生徒自らが学習内容の定着が確認できるようになっている。 ・第3学年の巻末に中学総合問題を掲載している。 ・単元末に用語確認のための選択問題が二次元コードから利用できることで、家庭学習に役立つ。 (3)「地域性」 ・「身近な大地の変化」の浜辺の砂など粒の大きさ色色の違いの紹介として、東京都新島村の写真を掲載している。(第1学年) ・「力の合成や分解」の扉ページに東京スカイツリー(東京都墨田区)の写真を大きく記載している。(第3学年)
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	「小中一貫の視点より」 ・単元冒頭と本文中に配置した「これまでに学んだこと」で、小学校で学んだ内容や中学校で既習済みの内容との繋がりが確認できる工夫をしている。	「小中一貫の視点より」 ・各単元の導入部分に、小学校の学習を振り返る「これまでに学習したこと」がある。写真や図を活用した既習事項のまとめがあり、系統性のあるものを簡単に記載している。	「小中一貫の視点より」 ・「ふり返ろう・つなげよう」で、小学校の既習事項を文字で記述している。小学校と中学校の学習のつながりを確認でき、活用しやすい。	「小中一貫の視点より」 ・「これまでの学習」で、小学校の既習事項を文字で記載している。また、単元冒頭の「思い出そう」で、写真や図を活用した既習事項のまとめがあり、系統性のあるものを記載している。	「小中一貫の視点より」 ・「つながる学び」において、章導入で、小学校で学習した既習事項を振り返ることができ、レディネスチェックに活用でき、学びが系統的につながる工夫をしている。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	(1)二次元コードについて ・二次元コードで読み込めるコンテンツが充実しており、生徒たちが話し合いをする材料にしやすい。 二次元コードで、既習事項を確認できるコンテンツがある。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実 ・章末、単元末では、基礎・基本の確認から活用型の問題まで用意して、習熟度に応じた学習の選択ができる。 ・二次元コードから繋がるbefore&afterシートで自分の変容を「メタ認知」しやすい。 ・対話例を適所に掲載し、自分の考えをもち、他者の考えを尊重し、協働的に学習する態度を育成しやすい。	(1)二次元コードについて ・理科の世界WEBへ二次元コードからアクセスでき、学習した内容を確認・定着することができる。 ・他教科との横断的な内容が二次元コードを用いて紹介している。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実 ・二次元コードから実験・観察の手順等を確認でき、生徒一人ひとりの理解度に合わせ確認できる。 ・第3学年の巻末には1冊で3年間の学習内容を確認できる演習問題を掲載している。 ・探求的な学びを協働的にすすめられるよう、キャラクターが対話を促したり、会話の場面を例示したりしている。	(1)二次元コードについて ・全ページに多言語変換に対応した二次元コードを掲載し、Webサイトで教科書紙面を確認できる。 ・Webページには教科書紙面だけでなく、多くのコンテンツがある。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実 ・二次元コードからチャットボットに質問を打ち込んで、学習内容を質問できる。 ・巻末に「思考を深める」「読解力強化」「計算問題」など付けたい力別の演習問題があり、個別最適な学習に対応している。 ・探求活動の仮説や計画のシーンには生徒キャラクターがいろいろな意見を交わしあう様子が示され、話し合い活動等協働的な学びを後押しする工夫がある。	(1)二次元コードについて ・コンテンツ豊富な「まなびリンク」「まなびリンク+」に二次元コードからアクセスすることで学びを深めることができる。 ・コンテンツに「グラフシート」が用意され、実験のデータ処理やグラフ作成などに対応している。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実 ・教師が二次元コードから利用できる教師専用サイト「まなびリンク+」では、クラスや生徒の学習状況に応じた個別最適な学びをサポートしている。 ・生徒キャラクターを使って、意見交換や議論する場面を示し、生徒同士が対話しながら学びを深められる工夫がある。	(1)二次元コードについて ・二次元コードで読み込めるデジタルコンテンツが多く、Webリンクもスムーズである。 ・章扉の「つながる学び」二次元コードでは、小学校の学習内容を振り返ることができ、レディネスチェックに利用できる。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実 ・本文内の「例題」では、「練習」のすべての解説動画を二次元コードから視聴でき、多様な生徒の理解度に対応した個別最適な学びをサポートしている。 ・「考えてみよう」「思考ツールの活用」「理科における話し合い」等で協働学習の場面を多く設定し、他者とコミュニケーションを図ることができる。

種目 音楽（一般）（1/1枚目）

調査の観点	発行者名	教育出版	教育芸術社
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方 ・精選された教材によって、必要な範囲の内容が適切に扱える。 ・学習指導要領に示された事項以外の内容や、歴史的事実との関連を図ることで、主体的な学びや、発展的学習につなげられる。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・歌唱教材では、斉唱や重唱、合唱など多様な演奏形態や、変声期への対応を含んだ各パートの音域は、各学年の発達段階に合っている。 ・鑑賞教材では、各学年の生徒の発達段階に応じた適切な扱いである。 ・創作教材では、リズムや旋律をつくったり、音楽を構成したりする楽しさを、「音のスケッチ」のコーナーで発達段階に応じて体験できる。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方 ・精選された教材によって、必要な範囲の内容が無理なく取り扱える。 ・「学びの地図」で学習の見通しをもち、「音楽の学びを振り返ろう」で音楽活動を通して、音楽を形づくっている要素を捉えたり、それらを活かして表現や鑑賞の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置され、学習のねらいも分かりやすく示している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・歌唱教材では、特に第1学年において変声期に対応した音域で作曲・編曲がされている。また、合唱の編成や各パートの音域は各学年の発達段階に即している。 ・鑑賞教材では、学年に合わせてさまざまな音楽的要素を取り入れた楽曲になっている。 ・創作教材では、各学年の発達段階に応じた「My Melody」のコーナーにデジタルコンテンツがあり、生徒の発達段階に応じた効果的な学習ができる。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)「主体的・対話的で深い学び」に向けての配慮 ・歌唱教材と鑑賞教材では、教材を比べて学習を深め、すすんで学び合うための活動例「Active!」や、楽曲のよさや魅力についてまとめるコーナー、創作教材では、作品を発表し交流するなど、生徒の主体的・対話的で深い学びを導き出すことができる。 ・「Let's Try!」のコーナーでは、指揮やアジアの音楽「ケチャ」、日本の伝統音楽などを実際に体験する課題を通して、更に学習を深めることができる。 ・話し合いを誘導するキャラクターの吹き出しがあり、生徒に言語活動を促すことができる。 (2)「各領域の分量について生徒の発達段階への配慮」 ・各教材を領域や分野ごとに分けて配列し、生徒の発達段階に配慮した分量である。	(1)「主体的・対話的で深い学び」に向けての配慮 ・歌唱教材と鑑賞教材の「学びのコンパス」や創作教材の「Let's Create」のワークシートに学びの手立てを示しており、生徒のさまざまな考えを引き出すことができる。 ・「学びの地図」で学習の見通しをもち、年度の終わりに「音楽の学びを振り返ろう」でプレゼンテーションを行い、1年間の学びで身に付いた力を振り返ることができる。 ・キャラクターの分かりやすい言葉の吹き出しによって学びを深めるためのヒントを示し、生徒に気付きや理解を促しながら言語活動を行うことができる。 (2)「各領域の分量について生徒の発達段階への配慮」 ・関連する表現教材と鑑賞教材を効果的に学習できるように配列し、生徒の発達段階に配慮した分量である。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすい表現になっている。 ・目次は、それぞれの分野に分け、シンプルで見やすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ ・全体的に明るい色彩でまとめている。写真や挿絵を用いて、分かりやすくなっている。 ・「音楽を形づくっている要素」のページでは、図と説明でシンプルにまとめている。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、楽譜や文章の配置がシンプルで、学習上必要な情報に確実に注目することができる配慮があり、見やすい表現である。 ・目次はシンプルで分野ごとに色分けをし、シンプルで見やすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ ・全体的に落ち着いた色彩で、写真や挿絵の大きさや配置が適切である。学習が見開きで完結しており、学習活動に集中できる。 ・「音楽を形づくっている要素」のページでは、説明にイラストや挿絵が使われ、イメージをもって学習できる。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1)教員にとっての使いやすさ ・「学習MAP」を領域・分野ごとに表示し、歌唱・鑑賞・創作領域同士の相互のつながりを関連させた指導ができる。 ・ワンポイント・アドバイス「Sing! Sing!」で表現に活かせる内容を指導できる。 (2)家庭学習への配慮 ・デジタルコンテンツ「まなびリンク」では、動画が多く、家庭学習で活用できる。「指揮をしてみよう」では、生徒が動画を見ながら練習できる。 (3)地域性に対する配慮 ・各分野の歴史的分野に触れ、関心をもてる。 ・「郷土の音楽や芸能」の学習では、「東京都」の獅子舞について扱っており、八王子市の郷土芸能に関連させて学習できる。 ・各学年に「故郷」の歌唱教材があり、全校合唱を行うことができ、郷土愛を育てることができる。	(1)教員にとっての使いやすさ ・学習指導要領に示された3つの資質・能力に対応し、身に付けさせる内容が明確で、指導案作成や評価に生かすことができる。 ・教材ごとに「楽曲の紹介文」「考えたいポイント」「音楽を形づくっている要素」等を色分けして示し、指導内容を明確にできる。 (2)家庭学習への配慮 ・二次元コードのコンテンツがあり、生徒の興味関心を引き出し、発展的で深い学びにつながる。特に歌唱教材では、二次元コードで旋律や伴奏の音源を聴くことができ、家庭でも歌唱練習ができる。 (3)地域性に対する配慮 ・各分野の歴史的分野に触れ、関心をもてる。 ・八王子市出身のシンガーソングライターの歌唱曲を採用し、郷土愛を育む指導に関連させることができる。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		・「学習MAP」は、学習の進め方を明示しており、義務教育9年間の学びを共通事項を軸に系統的に捉えることができる。 ・創作教材の「音のスケッチ」では、小学校から継続して扱い、音楽づくりから創作へと無理なくステップアップすることができる。	・「学びの地図」では、各領域と資質・能力の3つの柱との関連を示しており、小学校の学習内容との継続性や発展性を確認できる。 ・各学年に小学校の基礎的な学習内容が確認できるページがあり、既習内容を繰り返し確認できる。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等		(1)二次元コードについて ・動画、音声、ワークシートにアクセスできるデジタルコンテンツ「まなびリンク」の二次元コードがあり、「見る・聴く・記録する」学習に活用できる。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・教科書掲載の「まなびリンク」の他、WEBコンテンツ「まなびリンク+（プラス）」では、生徒の実態に合わせた学習に活用できる。	(1)二次元コードについて ・動画、音声、ワークシートにアクセスできる二次元コードが教材ごとについている。特に、歌唱のパート別や伴奏音源、創作用コンテンツが豊富で、学習活動に活用できる。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・デジタルコンテンツが豊富で、興味・関心を引き出し、主体的な学びや、協働的な学びに活用することができる。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 音楽(器楽合奏)) (1/1枚目)

調査の観点	発行者名	教育出版	教育芸術社
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方 ・精選された教材によって、必要な範囲の内容が適切に扱える。 ・学習指導要領外の内容についても、生徒の主体的な学びや、発展的学習につなげられる。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・各楽器の「演奏の仕方を身に付けよう」では、生徒の実態に合わせて基本的な演奏の仕方を身に付け、表現の工夫がある。 ・「名曲旋律集」など、古くから伝わっている古典的な曲を多く取り上げ、生徒が有名な曲に触れながら取り組める。	(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方 ・精選された教材によって、必要な範囲の内容が無理なく取り扱える。 ・音楽活動を通して、無理なく音楽を形づくっている要素を捉えたり、それらを活かして表現や鑑賞の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置され、学習のねらいも分かりやすく示している。 (2)生徒の発達段階に対する配慮 ・鑑賞教材や、生活の中で聴いている曲を取り入れ、発達段階に応じて取り組める。 ・バンドスコアやさまざまなジャンルとのコラボレーションを載せることで、興味・関心を引き出し、発達段階に応じた工夫がある。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)「主体的・対話的で深い学び」に向けての配慮 ・単元によって意見交換や考えを深められるワークシートがあり、主体的・対話的で深い学びを導き出せる。 ・各楽曲ごとに考えるポイントやワンランク上の課題を載せることで、主体的に取り組み、学習を深められる。 (2)「各領域の分量について生徒の発達段階への配慮」 ・前半は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の7つの楽器別、後半は、アンサンブル曲を配列し、生徒の発達段階を配慮した分量で取り扱っている。アルトリコーダーのアンサンブル曲が充実しており、発展教材として使える。	(1)「主体的・対話的で深い学び」に向けての配慮 ・「学びのコンパス」や「考えたいポイント」で学習の目標や手順等を示し、主体的・対話的で深い学びを導き出せる。 ・各楽曲ごとに考えるポイントやワンランク上の課題を載せることで、主体的に取り組み、学習を深められる。 (2)「各領域の分量について生徒の発達段階への配慮」 ・前半は、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器の8つの楽器別、後半は、アンサンブル曲を配列し、発達段階に配慮した分量である。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントを採用しており、見やすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ ・奏法の写真が大きく、分かりやすい。 ・「ギター&キーボードコード表」に写真を使用し、自学自習をする際に使いやすい。	(1)生徒にとっての読みやすさ ・ユニバーサルデザインフォントを採用し、学習上必要な情報に注目することができ、楽譜や楽器の配列がシンプルで見やすい。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ ・落ち着いた配色で、説明文と写真の並びを整理し、見やすく、学習に集中できる。 ・各楽器のページにおいて、生徒の実態に合わせて基礎的な技能を習得できるよう、写真や運指表を使用している。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくするための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1)教員にとっての使いやすさ ・リコーダー教材では、楽譜と同じページに運指を載せており、他のページを開かなくても生徒に確認できる。 (2)家庭学習への配慮 ・デジタルコンテンツ「まなびリンク」は、視覚的に分かりやすい動画が多く、家庭学習で活用できる。 (3)地域性への配慮 ・和楽器について、詳細に触れている。楽器の背景にある風土や文化、歴史、伝統を考える内容について紹介しており、愛国心や郷土愛の育成に繋がられる。	(1)教員にとっての使いやすさ ・資料としての情報量が多く、楽器に関することや奏法に関することが書かれており、学びを深められる内容になっている。 (2)家庭学習への配慮 ・二次元コードがあり、家庭学習で奏法を動画で確認したり、伴奏を流しながら練習をしたりすることができる。 (3)地域性への配慮 ・和楽器について、詳細に触れている。日本の伝統音楽の楽器について紹介し、愛国心や郷土愛の育成に繋がられる。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		・前半が「演奏の仕方を身に付けよう」、後半が「合わせて演奏しよう」としており、小学校の学習内容を踏まえて、知識・技能を習得できるようにしている。 ・創作教材は「音のスケッチ」として、小学校から継続して扱い、器楽表現を通して音楽を構成する楽しさを味わえる工夫がある。	・「学びの地図」で器楽・創作の学習内容と音楽を形づくっている要素を示し、小学校の器楽の学習内容とのつながりを一目で分かるようにしている。 ・小学校における「音楽づくり」の学習内容を踏まえながら、箏を用いて創作の活動を設定している。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等		(1)二次元コードについて ・「まなびリンク」のデジタルコンテンツで奏法や模範演奏を視聴でき、学習に活用できる。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・奏法や模範演奏のデジタルコンテンツを活用し、主体的に練習し、他者と協働して学習を進められる。	(1)二次元コードについて ・二次元コードのデジタルコンテンツを活用し、奏法や伴奏の視聴や、ワークシートで学習を進めることができる。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて ・奏法や伴奏のデジタルコンテンツを活用し、生徒が主体的に個人練習を行ったり、グループ活動の中で、協働しながら学習を進めたりすることができる。

種目 美術（1／1枚目）			
発行者名 調査の観点	開隆堂出版	光村図書出版	日本文教出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1) ・学習指導要領に沿って、具体的に明確な学習目標を設定している。日常生活や社会における優れた美術や美術文化を幅広く取り入れており、生徒が自主的に学習に取り組めるように学習方法を設計している。 ・教材内で、各活動が「発想・構想」や「鑑賞」の学習領域に属していることを示すマークを設けている。各活動の中で学習指導要領に示す3つの力のうち、どのような力を身に付けられるのかを示している。 ・現代の注目される新しい表現活動や造形活動に携わる作家やデザイナーを紹介し、中学生にとって親しみやすい美術や漫画などの美術文化を取り上げている。生徒が将来の社会、美術と自分自身とのつながりを考えることができるように設計している。 ・各単元ごとに学習指導要領に沿った「学習の目標」を観点別に明示し、生徒の振り返りに役立つ工夫がある。 ・掲載題材を「表現」と「鑑賞」に分け、系統的に美術鑑賞を学べる工夫をしている。 ・全題材を通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学べる構成になっている。評価規準も学習指導要領に沿ってわかりやすい言葉に置き換えたり、アイコンを活用して明記している。 (2) ・生徒が自ら学びくなるような題材を掲載し、それを生徒の成長段階に合わせて体系的に配置している。また、教科書自体のデザインを重要な学習の資源として位置づけ、中学生が関心をもちやすい工夫をしている。 ・「発達段階」に対する配慮や実際に制作している様子、発想を広げる手立てなどを多く示し、生徒がイメージをもって取り組めるよう発達段階に応じた興味・関心を高める工夫が見られる。 ・「図画工作から美術へ」を意識し図画工作から美術へのつながりを大切にしたり作りにっている。	(1) ・生徒が対象や事象を捉える「造形的な視点」を深めるために、題材の「学びの目標」や主文、そして鑑賞の題材において、造形的な捉え方を促す文言を工夫している。学習指導要領の知識に関する指導項目に基づいて、中学校3年間を通じた学習経験を積み重ねられるよう題材を配置している。 ・すべての各単元ごとに学習指導要領に沿った目標を明示し、その題材でどのような造形的な見方・考え方を働かせることができるのか分かりやすく示している。表現方法、ものの見方、制作順序など丁寧に示し、活用できる内容になっている。 ・各単元をバランス良く配置し、制作途中での参考資料としての使い方も想定でき、教員の指導の一助となる。 ・全題材を通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学べる構成になっている。評価規準も学習指導要領に沿ってわかりやすい言葉に置き換えたり、アイコンを活用して明記している。 (2) ・第1学年では、幼児教育や図画工作科との連携を考慮し、第2・3学年では、既に身に付けた資質や能力をさらに深め、歴史や社会との関連性にも視野を広げるなど、内容の系統性や学年ごとの発達段階に配慮した構成になっている。 ・「発達段階」に対する配慮・全2冊で、第1学年は、基礎的な技能が身に付きやすいよう、具体的な制作の手順などが分かりやすくまとめられており、第2・3学年は、身近な漫画や、生活に浸透したデザイン、世界的な現代アートなど、多岐に渡った作品を掲載している。	(1) ・全題材で、表現と鑑賞が一体的に学習できる工夫がある。学習指導要領に基づき、題材は「表現」と「鑑賞」の2つの領域から成り「絵画や彫刻」「デザインや工芸」そして「鑑賞」の3つの分野に分類して示している。また、表現の課題においても鑑賞活動を組み込んでおり、それぞれの題材における「中心となる考え方」を明確に提示している。 ・各単元ごとに学習指導要領に沿った育成すべき3年間の「学びの目標」を言葉で表紙に明示し、まとめ活動や評価の観点に活用しやすい。 ・「表現」と「鑑賞」の相互の関連を図った授業展開ができるように、1つの題材にマークで明示し、一体的に学習できる。 ・楽しく美術に触れられるように掲載画像を選定し、切り抜き写真の多用など、見やすくするレイアウトである。 ・「学びを支える資料」として歴史や発想の手助けとなる資料も充実している。 ・全題材を通して、美術や美術文化に関する知識や教養を幅広く学べる構成になっている。評価規準も学習指導要領に沿ってわかりやすい言葉に置き換えたり、アイコンを活用して明記している。 (2) ・「発達段階」に対する配慮・第1学年では図画工作からの接続への配慮として、「ようこそ美術の学びへ」と題し3年間の学びや教科書の使い方など配慮している。第2・3学年上巻では、伝統工芸など、幅広い題材を取り上げ、第2・3学年下巻では課題解決型の学習を中心に、社会と未来のデザインを考えるなど、学びの広がりや題材を掘り下げて探究することができる。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1) ・題材に応じて、生徒が議論や検討などの対話を通じて新しい発見をし、発想や構想を広げ、鑑賞を深めることができる学習方法を紹介している。「展覧会をつくる」では展覧会の企画を通して、目標を達成するための手立てや討議の論点の例を示すことで学びの道筋を明確にし、活発な対話が生まれる工夫をしている。 ・生徒が主体的に取り組めるよう、理解しやすい解説と学習方法、多様な資料を提供している。さらに、親しみやすいキャラクターの先生と生徒が登場させ、学習の各段階での問いかけやポイントを提示し、主体的な学びを促す工夫をしている。 ・日本や世界を代表する作品が、見開きのページに筆致や細部が確認できるほど大きく掲載され、作品鑑賞で、生徒の気付きから、対話的で深い学びにつながられる作品となっている。また、専門用語の説明などの記載があり、発展的な知識の習得にも配慮しており、理解を深めながら進められる内容になっている。さらに表紙の質感触感を変え興味・関心を高める工夫をしている。 ・第1学年では題材により、対話の写真を掲載するなど具体的にイメージがもてる紙面の工夫が見られ、第2・3学年では「暮らしに生きる美術」として社会で活躍する人々からのメッセージを多く掲載するなど、他者との社会的なつながりなどを学び、深められる。 (2) ・第1学年では、生徒の初めての中学校生活に対応するため「図画工作から美術へ」のページを設定し、小学校段階からの美術の能力をさらに育成する内容を重点を置き、また第2、3学年では、より高度な学習内容を段階的に組み込むことで、生徒の知識の深化と豊かな発想の向上を促している。 ・見開き2ページで1題材を基本として構成し、題材の軽重により大判図版の掲載や観音開きページを設けるなど、変化のある紙面づくりとなっている。	(1) ・「みんなの工夫」を通じて、生徒たちの試行錯誤や制作過程を詳しく示しており、「自分ならどうい作品を作りたいか」と主体的に考える機会を提供している。これにより、生徒自身が創造的な思考を深めることができる。 ・第1学年巻頭と第2・3学年の巻頭・巻末に配置された谷川俊太郎による文章「うつしい！」や、各学年のオリエンテーション、第2・3学年の「美術の力」などを通し、3年間の学びを経て、美術が生活や社会とどのように関連しているかを考える機会を提供している。生徒が学習や将来の社会において、造形的な視点や思考法を活用することができる。 ・各領域の扉に、学ぶ内容や学習内容の魅力やメッセージとして伝える工夫があり、導入で自ら主体的に学びに向かえる紙面構成である。 ・すべての題材において最初に鑑賞活動ができる作品掲載があり、主体的・対話的で深い学びに自然と取り組める問いかけを示している。 ・生徒作品目録や、生徒目録で美術の題材に取り組む資料が多数登場しているため、内容に入りやすい。また、生徒の作品紹介内容が充実しているため、何を目標に取り組むのかの目安になり、ねらった目標から継続しにくくなる工夫がある。 (2) ・全体を通して絵画や彫刻、デザインや工芸に加えて、カメラやICT機器を活用したさまざまな技法の作品を広範囲に取り上げている。これにより、生徒は多様な表現方法の中から自分のテーマに最も適した手法を選ぶことができる。 ・「表現中心の題材」「鑑賞中心の題材」と領域を明示し、学習の内容がイメージしやすい。また、印刷紙の素材を変えるなど、鑑賞をする際に関心をもてる工夫がある。	(1) ・実際の授業風景を捉えた写真を多用し、生徒が親しみやすく、写真からの表情や雰囲気から触発されて授業に興味をもつことができる。また、生徒が理解しやすい題材名や主文、題材導入のための二次元コード「学びのはじめに」、図版のサイズにメリハリをもたせた構成など、興味や関心を引き出しやすい教材を編成している。 ・日本や世界を代表する作品を、見開きのページに高精細印刷で筆致や細部が確認できるほど大きく掲載し、実物に近い大きさに鑑賞することができたり、他の作品に中学生の平均身長を横に並べて実際の大きさを実感できる配慮など生徒の気付きを促し、主体的・対話的で深い学びにつながられる構成である。 ・資料が細かくまとめられているため、多くの生徒が教科書を見るだけで、何をすればよいのかわかりやすく作られている。個別最適な学びに活用できる題材もつくられている。 (2) ・美術1では、新たな視点や感受性に触れ、美術の魅力を発見する体験を重視している。美術2・3年上では実践を通じて学びの深みを増し、美術に対する理解を深めることが目標とされ、美術2・3年下では、生徒自身の振り返りを促し、進路選択や将来設計に役立つ個人の価値観を形成する機会を提供している。これにより、美術教育が将来的な展望に結びつく。 ・構成上の工夫・学習指導要領に示されている「共通事項」への気付きを促す「造形的な視点」を分かりやすく提示し、目標と学びの内容が、関連付けられていることを生徒自らが意識できる問いかけがある。 ・「分野を示すインデックス」や「表現と鑑賞」はマークで領域を簡潔に示すなど、題材ごとに一目見て分かりやすい構成である。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1) ・部分的にユニバーサルデザインフォントを使用している。カラーユニバーサルデザインに配慮している。説明文等も字が太めで見やすい。 ・評価項目(3観点と共に「〇〇してみよう。」「〇〇かな。）」と、さまざまな着眼点での問いかけが多く、観点を意識しながら学びを深められる。 (2) ・写真の数が豊富である。 ・二次元コードの動画は、長めである分、詳しく解説している。 ・全体的に色のバランスがよく、興味が湧く工夫をしている。 ・各ページのタイトルや発音が大きく太い丸ゴシックで表示され認識しやすい。 ・表紙の作品に特殊加工を施し、タイトルのツヤ感や油絵の凹凸を表現し、教科書をより手に取りやすくする工夫をしている。	(1) ・小さい字にはユニバーサルデザインフォントを使用している。カラーユニバーサルデザインに配慮している。明朝体等もやや太めになっており、見やすくしようとしている。 ・イラストと優しい口調で〇〇してみよう。」「〇〇かな。）」と、様々な着眼点での問いかけが多く、生徒の豊かな発想を引き出せる。 (2) ・写真を大、中、小ささまざまな見せ方で見開きページや紙の質感を変えて工夫している。資料一覧を別紙にもつてくことでサイズを小さめにし、机の上に置いて作業をしやすい。 ・各ページのタイトルや発音を大きく太い丸ゴシックで表示し、説明の段落は文字間が広いためとても見やすい。 ・展開する見開きページでは屏風絵を載せることで空間を意識した構図や迫力を、また、日本の絵画のページでは紙質（和紙風）を変えることで和紙の質感や色彩をより伝える工夫をしている。	(1) ・部分的にユニバーサルデザインフォントを使用している。カラーユニバーサルデザインに配慮している。 ・優しい口調で「〇〇してみよう。」「〇〇かな。）」と、さまざまな着眼点での問いかけが多く、生徒の豊かな発想を引き出す工夫している。 (2) ・写真、文字、説明文のバランスがよく全体的に見やすい。 ・ジャンルごとにページを分け、帯で色分けしている。 ・全体的に印刷が鮮やかで、文字の黒も濃く、情報が目に入りやすい。 ・展開する見開きページに屏風絵や横長の大きい作品を載せている。また、作品の一部を原寸大で提示することで、空間を意識した構図や作品本来の迫力をより伝える工夫をしている。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1) ・授業の題材として写真が豊富である。二次元コードの動画解説が詳しいため授業の導入に使用することができる。 ・学習の目標を明確に示している。知識・技能、発想・構想、鑑賞について、それぞれの目標を記しており、授業で活用しやすい。 ・二次元コードで鑑賞シートや振り返りシートをダウンロードでき、指導がしやすい。 ・2冊(第1学年、第2・3学年)にまとめられ使いやすい。 (2) ・授業内容、または技法の復習によいと感じる。 ・デジタルコンテンツにより、動画で理解を深めることができる。美術を身近に感じられる作品が掲載されており、生活と結びつけやすい。 ・二次元コードで生徒作品や題材のポイントを閲覧できたり、関連する題材が明記されてたりするなど、生徒が自主的に取り組める。 (3) ・写真や作品にはすべて詳しく注釈を掲載しているので各地域の様子を想像しやすい。 ・「江戸の美術の面白さ」において、江戸の様々な美術文化を紹介している。(第1学年) ・地域の魅力を伝えるポスターを題材に取り上げ、作品例に文化祭のポスターを入れており、地域性に配慮している。	(1) ・各ジャンルごとに積極的鑑賞のページを導入している。二次元コードからの動画解説や360°の作品鑑賞、ワークシートなどが非常に充実しているため鑑賞の授業導入は内容の濃いものとなる。 ・学習の目標が明確である。実際の授業の様子や生徒のコメントを掲載しており、授業のイメージを掴みやすい。 ・2冊(第1学年、第2・3学年)にまとめられ使いやすい。 (2) ・生徒が家庭学習をする場合も動画による導入役に立つ。 ・二次元コードにより、技法や全国の生徒作品、作者のインタビュー等を見ることができ、家庭でも授業の準備や発想・構想を練ることに取り組みやすい。 ・別冊の資料を添付し、基礎の定着、発展的な学習のための配慮をしている。 (3) ・各地域の作品を万遍なく選出している。また、全国の生徒作品を二次元コードからコンテンツの中で紹介している。 ・「『明日の神話』を鑑賞しよう」において、渋谷駅にある岡本太郎の『明日の神話』が紹介されている。(第2・3学年) ・地域の商品のパッケージや世界の仮面など、暮らしや地域とのつながりを意識した題材を取り上げ、地域性に配慮している。	(1) ・ジャンルごとにページを分け、帯で色分けしているので抜粋しやすい。表現のヒントから指導に役立つ内容もある。 ・学びの目標が明確である。表現のヒントを記し、困っている生徒に対して手立てを示しやすい。 ・観点別の学びの目標、作品を見る際の造形的な視点を明記し、指導がしやすい。 (2) ・教科書後半にある技法書、または各ページの二次元コードからの解説動画が参考やきっかけになる。 ・二次元コードを利用して技法等の確認ができる。生活や社会との結びつきの事例を掲載し、生徒への意識付けができる。 ・作者の意図だけでなく制作過程や使用した材料を具体的に明記し、生徒が自主的に取り組める。 (3) ・各地域にある風景、美術館所蔵の作品、また各地区の生徒作品を教科書、二次元コードのコンテンツに掲載している。 ・「住み続けられる町づくり」において、渋谷区の宮下公園を紹介している。(美術2・3年下) ・地域の祭りや暮らしを彩る造形、パッケージなど暮らしや地域とのつながりを意識した題材を取り上げ、地域性に配慮している。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	・第1学年では、「図画工作から美術へ」とした巻頭3頁に小学校での活動と「中学校での学び」がつながっていることを示す活動写真を多数使っている。第2・3学年では、「私たちに身近な美術」と「受け継がれる美術」があり、未来への広がりや伝統の深さを体感する教科の特性を感じられる。 ・図画工作と美術の違いや美術を学ぶ意義が具体的に述べられており、意欲的に美術に取り組める工夫をしている。また、現代に活躍する美術家を数多く取り上げ、社会とのつながりがとても分かりやすく、興味をよりもてる構成である。 ・はじめに小学校での図画工作についての活動を振り返り、中学校の美術について説明をしているので、学習の継続性や系統性を意識しやすい。 ・領域を分かりやすく掲載しているので、これまでの学びとの関連性について捉えやすい。	・第1学年、第2・3学年ともに巻頭ページが開きやすく写真が見やすい。「うつしい!」の共通見出しがある。第1学年では、「うつしい!」を探すことから、第2・3学年では「問いかけろ美術」で社会とのつながりを意識している。SDGsとのかかわりを分かりやすく表示している。子どもらしい楽しさから、考える、社会問題と向き合う姿へと成長した美術を表現している。 ・色・技法・材料などの資料が豊富で、図画工作から美術にスムーズに移行できる。また、図画工作で培った発想力から自分の表現を追求する力へと発展できるよう、生徒に身近なりんごから発想を展開する方法や美術作品「立てる像」など小学校でも扱う作品が掲載されていてよい。 ・「自然の形や色を見つめて」、「墨で表現する楽しさ」、「版の表現を味わう」、「風神・雷神」等、小学校で扱う題材との継続性や系統性に配慮している。 ・「美術の扉を開こう」では、社会へ発信することについても触れている。これは、総合的な学習の時間と横断的に捉えることができよう。	・第1学年は、「美術との出会い」とし、スーラの点描による表現の「習作」から完成までを紹介し、見方や考え方の広がりを示している。第2・3学年上では、伝統技術や工芸作品に着目している。第2・3学年下では、現代アートや社会とのつながりから、未来へと発想できる作品を紹介している。美術の深さや広がりを感じ、系統性が理解できる。 ・小学校の図画工作においても重要な「造形的な視点」、「表現と鑑賞の一体的な学び」をわかりやすく構成している。水彩画、粘土、風景画等の題材も「鑑賞の入口」として関連付けてあり分かりやすい。 ・第5学年の国語で扱う説明文「漫画の方法」や第6学年の図画工作で扱う芯材の立体、風神雷神図屏風等小学校での学びを系統的・横断的に生かした題材構成である。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	(1) ・二次元コードにより解説や生徒作品などのリンクが各ページタイトルの上部にある。データ上で書き込みができるワークシートのリンクもあり、そのまま評価に使うことができる。 ・他社と比べて二次元コードのサイズが小さいが、内容が項目立てであるので、教師も生徒も必要に応じて活用しやすい。 (2) ・生徒がタブレットを使いながら制作したり発表したりする写真が繰り返し使われており、活用のイメージがわかりやすい。 ・二次元コードのリンクで全ての題材に導入コンテンツがあり、技法や知識の解説、生徒作品を鑑賞するなどの学習が個別にできる。また、立体作品を360°から鑑賞できるツールにより楽しみながら鑑賞できる。 ・他教科との関連を表示している。 (3)その他 ・裏表紙のクレジットを表紙作品の形に配置し、興味を引く仕掛けがある。 ・見開き1ページの写真や説明、評価の3観点等の配置が整理されていて見やすい。 ・SDGs、ICT、カリキュラムマネジメント、キャリア教育等を取り上げている。	(1) ・二次元コードは巻頭にウェブコンテンツ一覧へのリンクがあり、各ページのタイトル横に作品が、作品の横には作品解説が分かりやすく掲載されている。鑑賞のページでは作品にちなんだデザインの大きな二次元コードが目を引く。 (2) ・ICTを活用した教材も多い。スマートフォンやタブレットを使った、写真の加工や映像作品のつくり方のページが、第1学年、第2・3学年ともに充実している。 ・二次元コードのリンクにより、立体作品を360°から鑑賞できるツール、技法や知識の解説動画、全国の生徒作品を鑑賞するなどの学習が個別にできる。また、作品の高精細画像へ書き込みができるツールにより楽しみながら鑑賞することで発想を広げ、協働的な学びにも繋げることができる。 ・他教科との関連を表示している。 (3)その他 ・裏表紙のバーコードなど細かいディテールまで興味を引く仕掛けがある。 ・教科書+資料と分かれていて、資料を大変分かりやすく整理しており、教師も生徒も活用しやすい。写真が綺麗で大きさが見やすい。 ・コラージュで表現する際の注意点として、著作権について触れている。 ・SDGs、ICT、カリキュラムマネジメント、キャリア教育等を取り上げている。	(1) ・二次元コードが各ページの説明段落の横にある。動画作品は実際に動画を見ることができるリンクを作品横に分かりやすく掲載している。巻末に生徒作品を鑑賞できるリンクがある。 (2) ・学習用端末を活用した作品制作がイメージできる、生徒が学習している写真を掲載している。 ・二次元コードのリンクで全ての題材に導入コンテンツがあり、技法や知識の解説、全国の生徒作品を鑑賞するなどの学習が個別にできる。また、立体作品を360°から鑑賞できるツールにより楽しみながら鑑賞することができる。 ・道徳との関連を表示している。 ・「動画で表現する」という題材は学習用端末を効果的に使える題材である。 (3)その他 ・SDGs、ICT、カリキュラムマネジメント、キャリア教育等、近年必要とされている視点で構成している。小学校の各教科学習での学びを横断的・系統的に生かせるような構成である。

種目 保健体育（1／1枚目）

発行者名 調査の観点	東京書籍	大日本図書	大修館書店	Gakken
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)保健分野は学習指導要領に示された内容に基づいて、実習も含めて各学年16単位時間ずつ合計48時間配当している。また、保健分野は、学習指導要領に示された内容に基づいて各学年3単位時間ずつ配当している。さらに、教科名が「保健体育科」であることから、保健分野・体育分野の順に配列されている。 (2)「心身の発達」と「心の健康」の健康における発展的内容として、1ページ分、性の多様性について触れており、「お互いにその人らしさを認め合うことが大切」としている。	(1)体育理論は、学習指導要領に示された内容に基づいて各学年3単位時間ずつ配当している。また、保健分野は、学習指導要領に示された内容に基づいて、実習も含めて各学年16単位時間ずつ合計48時間配当している。 (2)心身の発達と心の健康の健康におけるトピックスとして、1/8ページ程度、性別に関わりなく個性や能力を大切することについて触れている。	(1)体育理論は、学習指導要領に示された内容に基づいて各学年3単位時間ずつ配当している。また、保健分野は、学習指導要領に示された内容に基づいて、実習も含めて各学年16単位時間ずつ合計48時間配当している。 (2)心身の発達と心の健康の健康における特集資料として、2ページにわたりアンコンシャスバイアスについて触れており、性的マイノリティも含めて思春期の悩みについて対応している。	(1)体育理論は、学習指導要領に示された内容に基づいて各学年3単位時間ずつ配当している。また、保健分野は、学習指導要領に示された内容に基づいているが、座学45時間＋実習3時間＝48時間と、あえて実習を別枠としている。 (2)心身の発達と心の健康の健康における探究課題に1/3ページ程度「性の多様性」について紹介している。また、あえて写真やイラストは使用しないことで、学習者が先入観をもたないように工夫している。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)「見つけろー課題の解決ー広げる」という3層構造で、主体的な学習を促す構成になっている。また、課題学習を進める上であらかじめ重要語句を提示することで、学習に見通しをもつことができるようにしている。さらに、活用の場面では「深く考える」「共有する」「自分の言葉で説明する」「分析、検討する」など課題解決の中核をなす活動をととして、さらに思考を深めることができる。 (2)1単元見開き2ページ1単位時間で取り扱っている。また、学習指導要領における指導計画の作成と内容の取扱いに基づいていることから、分量並びに発達段階への配慮がある。	(1)本文を左ページ、資料を右ページに分けたデザインで統一していることで、内容の把握がしやすい構成になっている。また、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」のコーナーを設け、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたり、主体的・対話的で深い学びにつなげていける工夫がある。 (2)1単元見開き1ページ1単位時間で取り扱っている。また、学習指導要領における指導計画の作成と内容の取扱いに基づいていることから、分量並びに発達段階への配慮がある。	(1)「つかむー身に付ける・考えるーまとめる・振り返る」という3層構造で主体的な学習を促す構成になっている。また、課題把握の段階で本時の課題を明確化し、活用時に必要となる重要語句を明示することで学習に見通しをもつことができたり、まとめでは自己で考えたり仲間と意見交換をする場面を設定している。さらに、章末には学んだことを実生活に活かすための特集資料や3観点の達成状況を測る質問を設定している。 (2)1単元見開き2ページ1時間単位で取り扱っている。また、学習指導要領における指導計画の作成と内容の取扱いに基づいていることから、分量並びに発達段階への配慮がある。	(1)「課題発見ー課題解決ー学びの活用」という3層構造で主体的な学習を促す構成になっている。また、ワークシート等で自身の考えを述べる機会や他者との話し合いを多く取り入れたり、まとめて主体的な取組みに関する自己評価を促したりすることでメタ認知に関わる力を育むようにしている。さらに、章末には学習内容を生活に反映することを促す「探求」の項目がある。 (2)1単元見開き2ページ1時間単位で取り扱っている。また、学習指導要領における指導計画の作成と内容の取扱いに基づいていることから、分量並びに発達段階への配慮はある。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1)読みやすいユニバーサルデザインフォントの使用、配色やデザインについてはユニバーサルデザインの観点から、色覚の多様性に配慮している。また、重要語句は太字としてルビを振っている。 (2)資料を随所に掲載しており、視覚的にも理解できるように配慮している。	(1)ユニバーサルデザインフォントの使用、カラーユニバーサルデザインを踏まえた配色の工夫等をしている。2(1)同様、シンプルな構成の工夫は読みやすさにもつながる。重要語句は太字でルビを振っている。 (2)資料を随所に掲載し、視覚的にも理解できるように配慮している。写真や資料では、東京2020大会色が濃い。	(1)読みやすいユニバーサルデザインフォントの使用、カラーユニバーサルデザインの実現の追求や段落区分等によって、視覚的にわかりやすく、情報の読み取りが行いやすい表現である。重要語句は太字でルビを振っている。 (2)資料を随所に掲載し、視覚的にも理解できるように配慮している。	(1)ユニバーサルデザインフォントを使用し、重要な語句は太字に、必要に応じてルビ振りを行っている。また、判読性を高め、色覚特性に配慮するために、色数を減らし、目に優しい紙面づくりをしている。 (2)資料を随所に掲載し、視覚的にも理解できるように配慮している。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ①八王子市いじめ防止対策 ②防災教育	(1)ページの左側が本文、右側が資料という統一性があり、「2 構成上の工夫」により、指導経験の浅い教員でも指導がしやすくなっている。また、関連項目へのリンクやデジタルコンテンツへの連携がしやすいため、指導方法に工夫をもたせやすい。 (2)デジタルコンテンツの活用により、章や単元をまとめた動画の視聴、資料の閲覧、ワークシートのアクセスなどをとおして、学習内容への興味関心の向上、まとめ等の自主学習に取り組むことができる。 (3)①「ストレスへの対処方法」でいじめを関連付けることができ、別掲として困ったときの相談先一覧の掲載がある。 (3)②章末資料に「防災タイムライン」の取扱いがあり、発展的内容として八王子市の防災に関連付けた学習ができる。	(1)本文と資料が明確に区別され、一目で構成がわかる等の工夫によって、指導経験の浅い教員でも指導がしやすくなっている。また、心肺蘇生の流れと方法については折込ページとなっており、一覧性が高い。 (2)webテストを設け、効率的に個別学習を行えるようにしている。また、学習した事を家庭や地域で活用できるように、該当箇所に「家」「地域」マークを設定している。 (3)①「ストレスへの対処方法」でいじめを関連付けることができ、「学びを活かそう」で、仲間はずれが推測される事例へのアドバイスを考えさせる取組がある。 (3)②授業者による「学習内容の地域性への反映」を強く働かせることで、八王子のハザードマップを活用した学習ができる。	(1)章のとびらには、体育と保健の見方・考え方を可視化し、まとめて学習価値で身に付けた力を確認・実生活に活かすことができるようになっている。また、構成の工夫により、指導経験の浅い教員でも指導がしやすくなっている。 (2)単元をまとめた動画では「熱中症」等身近な具体例を示したり、章のまとめの「主体的に学習に取り組む態度」では学習活動を振り返って自己評価を促したり、自主学習に取り組みやすい。 (3)①資料「ストレスと心の健康」でいじめ経験のある著名人の手記から「居場所があること」についての記載がある。また、状況に応じた相談先に関する記載がある。 (3)②特集資料「ハザードマップの活用」で八王子版ハザードマップの活用により、八王子市の防災に関連付けた学習ができる。	(1)各時間の「エクササイズ」「学びを生かす」で、正解が一つに定まらないような課題を随所に設け、話し合いを促すことを通じて、思考力・判断力・表現力等を育成できるようにしている。また、構成の工夫により、指導経験の浅い教員でも指導がしやすくなっている。 (2)二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツには各時間のまとめ・振り返りワークシートがあり、記入や保存もでき、提出課題としても活用できる。 (3)①発展的内容として「心と体のSOS」でいじめの定義や相談連絡先の記載がある。 (3)②資料として「タイムライン」の取扱いがあり、発展的内容として八王子市の防災に関連付けた学習ができる。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について (1)学びの継続性に関する特記事項 (2)教科内や他教科との関係性 (3)初経や精通 (4)呼吸数・心拍数	(1)各章のはじめに「小学校で学習した事」「高校で学習する事」があり、学習事項として簡潔な表記で記載している。 (2)教科内や他教科との関連をそれぞれ指定マークで明示している。また、随所でキャラクターが既習事項の確認をしている。 (3)初経や精通についての資料では、9歳以前から記載し、個人の成長について配慮している。 (4)呼吸数・心拍数の計測など、小学校6学年理科の学習と関連がある。	(1)各章のはじめに「小学校で学習する事」「この章で学習する事」「高校で学習する事」を記載し、学習事項を系統的に把握することができる。また、小学校と高等学校の部分は簡潔な表記で記載している。 (2)他教科との関連性を指定マークで明示している。 (3)初経や精通についての資料では、9歳から記載し、個人の成長について配慮している。 (4)呼吸数・心拍数に関する単元は、小学校6学年理科の学習と関連がある。	(1)各章のはじめに「小学校で学習した事」「この章で学習する事」「高校で学習する事」を校種順に記載し、学習事項を系統的に把握することができる。 (2)教科内や他教科との関連を指定マークで明示している。 (3)初経や精通に関する資料は、9歳以前から記載し個人の成長について配慮している。 (4)呼吸数・心拍数の計測など、小学校6学年での理科の学習と関連がある。	(1)各章のはじめに「小学校で学習した事」「高校で学習する事」がある。また、学習事項として簡潔な表記で記載している。 (2)教科内における関連性を示すため指定マークがある。 (3)初経や精通についての資料では、11歳以前から記載し、個人の成長について配慮している。 (4)呼吸数を計測するなど、小学校6学年での理科の学習と関連がある。
6 その他 (1)二次元コードの活用 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実 (3)人権や福祉への配慮 (4)編集の基本方針 (5)特記事項	(1)該当箇所の二次元コードからwebコンテンツ集に入ると、章のまとまりから各単元毎に内容をまとめた動画があり、他にも思考の整理・疑似体験・振り返りにつながるデジタル教材があり、学びを支援している。 (2)動画・シミュレーション・思考ツール・資料・章末問題などのデジタルコンテンツの使用ができ、個に応じた対応や協働的な学びができるよう配慮している。 (3)イラストは、男女の人数や役割について性別に偏りがなく、左利きや障がいがある、外国にルーツがある等多様な人物を用いている。また、共生や性の多様性に関する資料を掲載している。 (4)「教育基本法の理念を踏まえ、保健体育における主体的・対話的で深い学びを実現し、全ての子どもが輝く未来へつながる資質・能力の育成を目指す」としている。 (5)巻末スキルブックとして、実習も含めて、20項目の健康や安全に関するスキルを紹介している。また、関連箇所に「既習事項マスコット」が小学校で学んだことの確認を促している。	(1)実習に関する資料や動画や章末にまとめの問題につながる二次元コードがある。 (2)口絵16ページの二次元コードからwebコンテンツ集に入ることのでその都度サイトに移動する必要がなく、動画・資料・シミュレーション・テストがあり、学びを効果的に支援している。 (3)イラストは、男女が同人数になるようにしたり、国籍や男女の役割を限定しないようにしたりしている。グラフや表は、生徒が視覚的に捉えやすい。 (4)「知識を活用する力や知識を生かして物事を解決する力が問われる時代に、学習した事を生活に活かせる生きた学びを目指す」としている。そして、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現して明るく豊かな生活ができる力を育むとともに、学ぶ楽しさやわかるよこびを実現するよう工夫している」としている。 (5)令和3年度（令和4年度使用）の検定本である。	(1)目次の二次元コードからwebコンテンツ集に入ることのでその都度サイトに移動する必要がなく、動画・資料・ワークシート・テストができるデジタル教材があり、学びを支援している。 (2)実習動画やワークシートを活用してブレインストーミングする等、協働的な学びを支援している。また、学習確認問題もあり、学習意欲の向上や定着に向け、学習確認問題を設定している。 (3)人物イラストの男女比率や役割に偏りがないようにすることで、固定的なイメージで性を区分しない、高齢者、障がい者、外国人などの関わりについて、多様な他者との共生・協働の実感をもたせるようにしている。 (4)「社会が急速に変化し予測が困難な時代に生きる子ども達に、自ら未来を切りひらく力を育てる」とし、変化に向き合い、多様性を尊重し、他者と協働して課題を解決することを掲げている。 (5)性への関心と性情報への対処では、欄外に「自撮り被害」「SNS上の出会いに注意」と具体的に示すとともに、関連内容としてケガの防止の特集資料に「性的な犯罪・暴力が起きないようにするために」を記載している。	(1)該当箇所の二次元コードからwebコンテンツ集に入ることので動画・外部リンク・ワークシートのデジタル教材があり、学びを効果的に支援している。 (2)実際にデータを入力したりロールプレイングを支援する等のシミュレーション教材を活用することができる。また、実習動画の活用も含め、資料を自ら選択して学習に取り組む事ができる。 (3)イラストには人物の男女比や役割、背景などに偏りが出ないようにしている。また、発育や発達には個人差があることを重視し、多様性に配慮している。 (4)「1人1人が自分自身の価値観や生き方を考えながら進んでいきつつ、協調的な幸福をバランスよく実現していくことを求めるというウエルビーングを重視し、生きる力、自ら学び、自ら考える力を育てる」としている。 (5)体育理論「スポーツの安全な行い方」の資料として、野外スポーツ・熱中症・練習計画の立て方がまとめて盛り込まれている。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 技術・家庭(技術)（1／1枚目）

調査の観点	発行者名	東京書籍	教育図書	開隆堂出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1)目標及び内容に対しての配慮 ・十分に配慮している。各節の冒頭に観点別評価につながる「目標」「学習課題」があり、各編末に「学習のまとめ」があり、身についた資質・能力を確認できる。実習教材例が豊富である。 (2)生徒の発達段階に対して配慮 ・十分に配慮している。幅広い難易度の問題解決例があり、授業時間や技能に応じて選択できる。	(1)目標及び内容に対しての配慮 ・十分に配慮している。各節の冒頭に観点別評価につながる「めあて」があり、各編末に「学習のまとめ」があり、身についた資質・能力を確認できる。 (2)生徒の発達段階に対して配慮 ・十分に配慮している。幅広い実習題材がそろっており、生徒の習熟度や進度に対応できる。	(1)目標及び内容に対しての配慮 ・十分に配慮している。各節の冒頭に観点別評価につながる「目標」「学習課題」があり、各編末に「学習のまとめ」があり、身についた資質・能力を確認できる。 (2)生徒の発達段階に対して配慮 ・十分に配慮している。実習例は基本から参考・応用的なものがあり、多様な例を扱っている。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・主体的に調べたり、友達と協働して比較・検討したりするための発問を設けるなど、深い学びを実現する工夫をしている。 (2)各領域の分量 ・学習が系統的にすすめられるよう、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで記載している。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「やってみよう」では技術について調べさせたり、考えさせたりする活動を通して、主体的で対話的な学びができるように配慮している。 (2)各領域の分量 ・時数、学期、学年配分などに配慮し、偏りなく扱える構成である。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「学習課題」を通して生徒が授業へ積極的に取り組める。 ・他者との関わり合いをもちながら、技術の理解を深められる。 (2)各領域の分量 ・分量や配分は、授業時数や多様な指導計画などを考慮してまとめている。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1)生徒にとって読みやすい表現 ・本文はページの左側、図表は右側で統一している。章ごとに学習課題、項目ごとに課題点(問い)を示し、続いて本文に解説を記している。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・図と表にはそれぞれ番号を振っている。キーワードはゴシック体である。	(1)生徒にとって読みやすい表現 ・本文は見開きページの内側、図や表は外側である。「学ぶ」「見つける」「振り返る」を記している。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・図表は「資料」としてまとめて番号を振っている。キーワードは青色のゴシック体である。	(1)生徒にとって読みやすい表現 ・本文は見開きページの内側、図や表は外側である。章ごとに学習課題を示し、続いて本文に解説を記している。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等の見やすさ、分かりやすさ ・図と表にはそれぞれ番号を振っている。キーワードはゴシック体である。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮 ・学習が系統的にすすめられるよう、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで構成している。 ・主体的・対話的で深い学びができるよう配慮されている。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・問題解決のプロセスに沿った構成となっていて、自らの問題解決に主体的に取り組むことができる。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・豊富な資料を掲載して、学校や地域の実態に応じて、選択して指導ができる。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮 ・興味・関心が高められるように資料を豊富に掲載している。 ・問題解決を主体的に取り組める流れを掲載することで、思考・判断・表現ができるように配慮している。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・各篇のまとめがあり、学習の振り返りができるよう配慮している。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・伝統的な日本の技術について事例を紹介するなど、伝統と文化を尊重する態度を養うことができる。	(1)教員にとって、使いやすくなるための配慮 ・各内容が基礎・基本の習得から応用・発展的な学習へと系統的に展開されるように配慮している。 ・問題解決的な学習が無理なく展開できるように工夫している。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 ・各篇において学習のまとめを行うことで、学習の振り返りができるよう配慮している。 (3)地域性に対して配慮しているか。 ・地域の伝統文化に関する写真や話題を取り上げ、地域や伝統文化を大切にする気持ちを育むことができる。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		・「リンク」マークを用いて、教科間・学校種間連携が図れる。 ・二次元コードで、「他教科」や「小学校」の関連する内容の教科書紙面を見ることができる。	・各章ごとの資料に、他教科との学習の関連を表すマークを示して、教科間の学習の連携が図れるように配慮している。	・小学校や他教科とのつながりを各内容のとびらページで示している。 ・文中で、他教科と関係がある箇所マークを示し、横断的なカリキュラムが立てやすい。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等		(1)二次元コード ・写真やイラスト、動画、ワークシートなどの二次元コードが充実している。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」 ・個別最適な学びに繋がる作業方法や対話的な学びに使える動画が二次元コードにある。動画にテロップが入っており、音を出さなくても活用できる。	(1)二次元コード ・写真やイラスト、動画、ワークシートなどの二次元コードが充実している。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」 ・二次元コードにある作業動画は成功例と失敗例に分かれており、状況に応じて個別最適な学びに繋がる活用ができる。 (3)別冊(スキルアシスト)で、実習等に役立つ用語の解説をしている。	(1)二次元コード ・写真やイラスト、動画、ワークシートなどの二次元コードが充実している。 (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」 ・二次元コードの動画で実験や学習課題などを扱うことで、協働的な活動に繋がる。適切な箇所に二次元コードがあり、個別最適な学びに繋がる活用ができる。

令和7年度（2025年度）八王子市立中学校及び義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（資料作成委員会）

種目 技術・家庭(家庭) (1/1枚目)

発行者名 調査の観点	東京書籍	教育図書	開隆堂出版
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	十分配慮されている。学習指導要領の目標と内容を網羅している。 (1)家族・家庭生活の分野では、指導要領の流れに沿って学ぶ順序を考慮している。 (2)衣生活、住生活では、「学習のまとめ」で領域の内容を網羅している。食生活では、写真やイラストが充実している。	十分配慮されている。学習指導要領の目標と内容を網羅している。 (1)学習指導要領の構成と同様に、指導事項ア・イの順に沿ってページを配列している。 (2)衣生活、住生活では、資料が大きく調べ学習に役立てられる。食生活では、写真が充実しており、見やすい形である。調理の基礎技能について簡潔にまとめている。3年間で学ぶ上で、それぞれの分野を相互に関連させて学べる工夫をしている。	十分配慮されている。学習指導要領の目標と内容を網羅している。 (1)生活の営みに係る見方・考え方の観点を確認しながら、学習内容を進められる。調理に関しては、生徒が疑問に感じやすい内容を事前に記載している。 (2)衣生活、住生活では、学習内容を抑えつつ、発展の内容も掲載している。家族・家庭生活では、「参考」が資料として充実している。生活に必要な費用などを具体的に明示していて実生活に結び付けやすい。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	十分配慮されている。 (1)衣生活、住生活では、「レッツスタート」という項目を立てて、衣服計画や室内環境を主体的に考える場面を設定している。消費生活では、教材ごとに交流する場面を設け、相互に課題を交換し合い、主体的に他者と関わりながら考えを深める工夫がある。 (2)総ページは291ページ。食生活では、「〇〇してみよう」という活動があり、主体的に調べたり、友達と協働して比較等ができる工夫をしている。	十分配慮されている。 (1)「みつめる」という項目を立て、衣服の着装や住まいの安全を主体的に考える場面を設定している。消費生活では、教材ごとに交流する場面を設けるとともに、コミュニケーション能力を高める教材を多く設けている。 (2)総ページは279ページ。家族・家庭生活では、学習を振り返りながら、問題を発見し、取り組む課題を見つけ、実践、評価、改善、そして次の課題へという流れで問題解決的な学習が進められる。	十分配慮されている。 (1)自分の考えを基に他者と関わりながら考えを深める場面を設定している。他教科との連携を通して、関心をもって取り組むことができる。めあての部分に設問があるため、興味をもちやすい。 (2)総ページ312ページ。家族・家庭生活の分野に多くのページを配分し、これからの新しい家族像や関わり合う地域について重点的に扱っている。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	十分配慮されている。 (1)学習者用デジタル教科書で翻訳機能が利用可能になっている。文字は読みやすい大きさと、ルビも振っている。単元の最後には学習のまとめとして問題を設けている。 (2)資料の色使いはやや落ち着いたトーンで、写真資料の大きさが適切である。印刷は鮮明であり、ユニバーサルデザインフォントを使用している。色覚特性に適応したデザインとしている。調理実習の手順を横向きに統一している。	十分配慮されている。 (1)文字は読みやすい大きさと、重要語句は青色である。章末のまとめとして問題を設けている。 (2)印刷は鮮明であり、挿絵や図形をわかりやすく載せている。見開きで「見つめる」「学ぶ」「振り返る」がひとまとめになっていることで、生徒が流れをつかみやすい。文字が大きいため見やすい。	十分配慮されている。 (1)ユニバーサルフォントを採用していて、特別な支援を必要とする生徒に配慮している。単元末には学習のまとめとして問題を設けている。「参考」等の項目を区別しているため、扱いやすい。 (2)住まいの安全はクイズ形式で適量で、資料の色合いは落ち着いたトーンである。印刷は鮮明であり、ユニバーサルデザインフォントを使用している。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくするための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	配慮されている。 (1)冒頭で目標を明確に示した後に学習課題を設定することで、主体的に学習が進められる。また、最後にまとめの活動を設け、次の学習につなげる工夫をしている。「まとめよう」ではキーワードから自分の学びを自分の言葉で記述できる。 (2)「せいかつメモ」にさまざまな知識が載っているため、生活に活かすことができる。 (3)「プロに聞く」という項目を立て、災害対策では、最新の情報を加えた資料がある。	配慮されている。 (1)「ふり返る」のページに「私の学び」を記入することができ、授業の振り返りを行うことができる。調理に関しては家庭で実践できる内容を記載している。 (2)ロールプレイや具体例を多く掲載し、実生活に活かしやすい工夫をしている。単元の最後に「学びを生かそう」として、調べ学習に生かせる資料を記載している。 (3)装丁の横幅が狭く、ユニバーサルデザインとなっている。自然災害への備えの例として物の備えを図示している。	配慮されている。 (1)ページの最下部には豆知識があり、内容をさらに深められる。他教科との関連事項が多い。 (2)資料が豊富で、視覚的にも生徒が興味・関心をもちやすい。参考資料があり、調べ学習の手助けとなっている。 (3)索引を細かく設定している。災害後の生活の立て直しでは、NHKアーカイブ「明日に生きる」を引用し、中学生の手記を掲載している。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	小学校の復習が多く、系統性に配慮している。他教科との関連項目もある。各編の導入ページで、「小学校での学習」をキーワードに挙げ、振り返りができる。他教科との関連は、関わりのあるページに記載がある。	小中のみならず、高等学校への系統性が分かりやすい。関連マークを記載し、小学校の復習だけでなく、各教科との連携もできる。関連のあるページに他教科の内容を記載している。	単元の始めに学習内容を系統立てて記載している。小学校で学ぶことを始めの部分に記載している。各教科との関連項目を多く記載している。小学校の学習と関連する項目に「関連マーク」があり、小学校での既習事項を振り返ることができる。
6 その他 (1)二次元コードについて (2)消費者教育副読本磨け消費者力活用とICT活用による「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて	(1)衣生活、住生活では、二次元コードを使って一括で検索でき、小学校の復習動画がある。ほぼすべてのページに二次元コードが付いており、さまざまなコンテンツを用意している。食生活でも二次元コードを使って一括で検索でき、内容が充実している。切り方の動画は1分程で、字幕がついている。 (2)消費生活では、小学校の復習動画があり、サイトの文字もUDフォントで記載している。	(1)衣生活、住生活では、二次元コードの脇に項目を記載している。家族、家庭生活では、資料タイトル付きの二次元コードがあり、活用しやすい工夫がある。食生活では、始めに切り方の特徴の説明があり、最後に調理例がある。 (2)消費生活では、二次元コードの脇に項目を記載しており、読み込むとまとめて見ることができる。	(1)衣生活、住生活では、二次元コードを各分野ごとに細かく配置している。家族、家庭生活では、多くのページの見開き右上に二次元コードが付いており、画像や動画、資料をふんだんに掲載している。食生活では、切り方などは数十秒程度の動画になっているので、調理実習等で活用できる。 (2)消費生活では、農林水産省や消費者庁のサイト、動画などがあり、正しい情報を収集することができる。

種目 外国語(英語)（1／1枚目）

調査の観点	発行者名	東京書籍	開隆堂出版	三省堂	教育出版	光村図書出版	新興出版社啓林館
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。		(1)十分配慮されている。巻末のCan—Doリスト等小学校や高等学校との接続も考慮した上で、各学年の到達目標が明確にされている。また、各UnitがStage Activityに向けて段階的に学習できる構成になっており、実践的なコミュニケーション能力を身に付けさせる工夫がされている。 (2)Key Sentenceの配列が見やすく、be動詞や一般動詞の導入が分かりやすい。	(1)十分配慮されている。本文読了後に、その内容に関するReview&Retellの活動があり、自分の言葉で話すための「思考力・判断力・表現力」を伸ばす工夫がされている。また、自主的に学習に取り組みさせる工夫が多くなされている。 (2)5領域の活動の工夫。Our Projectでは難易度が発達段階にに応じている。	(1)十分配慮されている。全学年にわたり、言語材料が系統的に配列されている。また、音声から文字へ、練習からコミュニケーション活動へと自然に進められるような工夫がされている。 (2)音声から文字、練習からコミュニケーション活動の流れが配慮されている。	(1)十分配慮されている。生徒が無理なくコミュニケーション能力の育成を図ることができるように、実際の使用に即した場面設定の中で、4技能5領域の言語活動をバランスよく取り組むことができる工夫がされている。 (2)be動詞と一般動詞等、各学年の混乱しやすい文法の配列が配慮されている。	(1)十分配慮されている。実社会に対応した様々な場面設定で、実用的な英語を身に付けると共に、Active Grammarで丁寧に文法事項の整理をし、生徒が無理なく段階的に学ぶことができるよう工夫されている。 (2)中学生が部活動等で触れるスポーツが扱われており、発達段階を考慮している。	(1)十分配慮されている。UnitGoalごとの目標がInputとOutputの2本柱で明確に示されており、生徒が見通しをもって活動に取り組むことができるよう工夫されている。 (2)日本と外国の文化の比較や、学校生活の違いに触れる文法等、発達段階に配慮されている。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。		(1)小学校の内容が振り返りやすく、Can-Doリストも使いやすい。Enjoy CommunicationやYour Turnのようなアクティビティが充実しており、第1学年から即興でやり取りや発表ができるつくりになっている。目標の到達度もユニットごとにチェックできるので確認がしやすい。帯活動用のSmall TalkやExpression List等の会話を続けるための便利な表現集も充実している。 (2)各領域の分量等は発達段階を十分に配慮している。第2, 3学年になると英文の分量が多くなるが、都立入試を考えると適量である。	(1)Scenes for Basic Dialogsが漫画形式になっているので、視覚的に理解しやすい。日常的な題材が多いので、興味・関心も湧きやすい。各見開きページにはSmall Talkがあり、ペアで即興的に話す活動ができる。Speak&Write、Small Talk表現集のようなアクティビティも充実している。CAN-DOリストは四つの観点に分かれていて、到達度の確認できる。Our Projectでは仲間とアドバイスし合えるつくりになっているので協働的な学びが行える。 (2)各領域の分量等は発達段階を十分に配慮している。	(1>About Me(1年)、Think about yourself(2, 3年)で、即興でペアやグループワークなど、対話的なグループ活動ができるようになっている。Small Talkも充実している。Tips for Small TalkやRole-Play Sheet、Goal Activityなど、主体的・対話的で深い学びに向けてのアクティビティが充実している。3年間かけて会話を継続するコツが学べるつくりになっている。身近な話題からスタートできる。 (2)各領域の分量等は発達段階を十分に配慮している。	(1)Let's Try ! kでは、ペアで対話的な活動ができるようになっている。Activity PlusやTips、Useful Expressionsなど即興的なやり取りの力を伸ばす工夫がされている。Think&Tryでは活動例を紹介していて、現実的な場面に即した表現を学ぶことができるようになっている。Can-Do自己チェックリストが充実している。好奇心を伸ばし、思考や共感の力を高める工夫がある。 (2)各領域の分量等は発達段階を十分に配慮している。	(1)Can-Doリストでは、できるようになることとその過程がわかるようになっている。巻末だけでなく、Unitごとに振り返りができる。"その場で"スピーキング、Let's Talk、My Opinion等の帯学習のための教材が充実していて、ペアやグループ等で即興的に話す力が身につく構成になっている。各ページにあるLet's ChatやGoal Speakなど、内容も豊富である。 (2)各領域の分量等は発達段階を十分に配慮している。	(1)Unit Goalでは、inputとoutput両方の目標が提示されていてわかりやすい。Enjoy Chattingが各パートにあり、即興で話したり伝えあったりする力を育てるための活動が充実している。また、Express Yourselfを使ってペアで目的・場面・状況に応じた自己表現を学ぶ工夫がされている。Let's Talkでは実生活に即したリアルな場面でのやり取りができる。 (2)各領域の分量等は発達段階を十分に配慮している。小学校からの引継ぎもスムーズにできる工夫がされている。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。		(1)見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。食べ物(ご当地グルメ)から防災、戦争問題など幅広い題材を取り上げている。 (2)写真が多く使われ、イメージがしやすい構成となっている。挿絵もカラフルに描かれていて、注意を引きやすい工夫されている。本文や新出単語を扱うページにはシンプルな挿絵が挿入されている。そのため、本文等に集中できるよう工夫されている。	(1)見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用している。本文(文章・記事)の行間が適度にとられている。生徒にとって読みやすい書体が使われている。 世界で楽しまれているスポーツ、ユニークな動物、フィンランドの文化についてなど、生徒の興味関心に即した幅広い題材を取り上げている。 (2)主な登場人物(先生と中学生4人)の他にも、随所に教科書独自の動物キャラクター(犬やペリカンなど)が登場する。 挿絵と題材に関連した写真が使い分けられている。	(1)見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用。本文(文章・記事)の行間が適度にとられている。生徒にとって読みやすい書体が使われている。 人気のキャラクター(1年)、環境問題(2年)、歴史的事実(3年)などの題材が取り扱われている。生徒の発達段階に即し、また他教科にも絡めた題材となっている。 (2)挿絵の表情がとても豊かで、登場人物の感情がよく伝わってくる。 主な登場人物(先生2人、中学生6人)以外にも、挿絵に登場する。また、登場人物は実頭身がメインだが、2頭身で描かれることもある。	(1)見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用。 左側のページは本文と新出単語、右側にはKey Sentence やその他の言語活動が配置されており、統一感のあるレイアウトとなっている。 1, 2学年では生徒にとって興味深い外国の文化(標識や学校の様子)が取り上げられている。3年ではディベートについての題材が多く取り上げられている。 (2)主な登場人物(先生と中学生4人)の他に、クマのキャラクターが随所に登場し、吹き出しで解説やアドバイスをしてくれる。	(1)見やすく、読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用。軽量で薄い紙を使用している。 左側のページは本文と新出単語、右側にはListen、Speak、Writeなどの言語活動が配置されており、統一感のあるレイアウトとなっている。 (2)挿絵の表情が豊かで、登場人物の感情が伝わりやすい。また挿絵の色は淡い色を使用していて、見やすい。 登場人物(中学生5人、高校生1人、先生1人)が豊富でかつ国際色豊かである。 挿絵は淡い色が用いられていて、見やすい。	(1)内容が伝わりやすい配色・デザインが用いられている。メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中。見やすさ、読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを使用。 左側のページは本文と新出単語、右側にはKey Sentence やその他の言語活動が配置されており、レイアウトが統一されている。 2, 3年では、環境問題や防災についてなど、社会的な事案に関連した題材が取り上げられている。 (2)挿絵はシンプルであるが、その分、本文などに集中できるような作りである。 写真よりも、挿絵の割合が多い。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。		(1)教員にとっての使いやすさ ・新しい表現を学ぶために、多くの活動が取り入れられており、授業の流れを作りやすい。 ・単元の最後に課題があり、学習したことを用いて、自己表現をする活動が取り入れられており、目標に向かった授業を展開しやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・各ページの二次元コードを読み取ることで、本文のみならず、進出語句や新しい表現等も確認することができる。 (3)地域性への配慮 ・日本の文化や伝統を外国に発信する活動を取り入れている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・単元ごとに、新しい表現を学ぶページ、学習したことを定着させるページ、学習したことを自己表現につなげるページと、4技能ごとにページが分かれている。 ・新しい表現を2コマ漫画で端的に活用例を表現してある。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・知識を得るためのページ、学びを深めるためのページ等、ページごとに何を学ぶことができるのかが明確である。 (3)地域性への配慮 ・日本の日常的な文化や伝統について多くの場面で触れている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・各ページが、新たな言語習得のための表出順として①聞く②話す③読む④書くで構成されているので、スムーズに授業展開ができる。 ・各ページの活動ごとに、4技能のマークがついており、どのような力を伸ばしたいのかが明確である。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・各ページの二次元コードが進出語句と本文で分かれており、家庭学習の目的に沿って、音声を確認することができる。 (3)地域性への配慮 ・自分の住んでいる地域のことや、日本の文化を海外に発信する活動が取り入れられている。また、海外と日本を比較できる内容も多くある。	(1)教員にとっての使いやすさ ・見開き1ページの中に、ねらいや4技能に係る活動が入っており、授業を展開しやすい。 ・単元ごとに学習した内容のTaskページや文法の仕組み等があり、復習を充実させられる。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・各ページの二次元コードを読み取ることで、そのページの本文を何度も聞き直し、付属のワークシートで復習をすることができる。 (3)地域性への配慮 ・日本の文化を紹介する活動や、日本と外国の文化を比較できる取組がある。	(1)教員にとっての使いやすさ ・単元ごとにそのねらいが明記されており、ねらいに沿って授業ができるため、指導しやすい。 ・単元の最後に課題があり、英文を書いたり、スピーチをしたりと表現活動が充実している。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・各ページに4技能のマークが掲載されており、そのページでどのような力が身に付くのが分かりやすく、目的をもって学習することができる。 (3)地域性への配慮 ・自分が住んでいる地域について外国の人に紹介する活動を取り入れている。	(1)教員にとっての使いやすさ ・単元ごとのねらいが、表現活動だけではなく、どのようなことを理解することができるかという視点でも設けられているため、授業の目標を立てやすい。 ・各ページに英語で会話するテーマが書いてあり、生徒のウォーミングアップに活用できる。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・各ページの二次元コードを読み取ることで、本文のアニメーションを見ることができ、授業の復習をしやすい。 (3)地域性への配慮 ・自分の住んでいる地域のことや、日本の伝統等を紹介する活動や、日本と外国の文化を比較できる取組がある。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について		・Unit0で挨拶、アルファベット、フォニックスの確認ができ、中学校での学習をスムーズにスタートできる。 ・Unit4までで小学校での学習内容を復習できるようにになっている。 ・小学校での既習単語は下段に示されており、確認をしやすい。	・巻頭のGetReady で小学校の既習単語、アルファベット、自己紹介などでの復習ができ、中学校での学習をスムーズにスタートできる。 ・巻末の辞書で小学校の既習単語に若葉マークがあり確認ができる。	・第1学年の巻頭のstarter で好きなこと、アルファベット、フォニックスなど小学校での学習内容を復習でき、中学校での学習をスムーズにスタートできる。 ・小学校での既習語句は別枠で示されており、確認をしやすい。	・巻頭のspring boardで アルファベット、フォニックス、ローマ字、曜日や日付などの確認ができ、中学校での学習をムースにスタートできる。 ・Lesson2までで小学校での学習内容を復習できるようにになっている。 ・小学校での既習表現は別枠で示されており、確認をしやすい。	・巻頭のLet's Be Friendsで自己紹介、フォニックス、数字など小学校で学んできたことの復習をし、中学校での学習をスムーズにスタートできる。 ・小学校での既習語は桜の花びらマークで示されており、確認をしやすい。	・第1学年巻頭のLet's Startでリスニングクイズ、アルファベット、フォニックスなど小学校で学んできたことの復習をし、中学校での学習をスムーズにスタートできる。 ・小学校での既習単語は「小Words」で示されており、確認をしやすい。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等		(1)277箇所の二次元コードから、3298ファイルの映像や音声にアクセスできる。 (2)ウェブアプリ(本文・語句ビューア等)、資料(用語辞典、Word Room等)、動画コンテンツ、クイズにアクセスすることができ、Key Sentences解説動画やWord Roomなどは3年分のコンテンツにアクセスして既習事項を確認することができる。タブレットからActivity Sheetや思考ツールは書き込みや保存が可能で、協働的な学習に活用できる。	(1)ほぼ全ページに二次元コードを設置している。 (2)本文・語句音声、Sceneアニメーション、題材導入動画、文法解説アニメーション動画、Our Project発表モデル動画、単語学習アプリにアクセスできて、個別の学習に活用することができる。	(1)ほぼ全ページに二次元コードを設置している。 (2)本文アニメーション、基本文のドリル、単語の練習、題材の資料映像、文法の解説動画、英語辞典、発音チェック、発音図鑑、モデル動画・watchアニメーションにアクセスでき、個別ニーズに対応している。	(1)ほぼ全ページに二次元コードを設置している。 (2)「まなびリンク」にアクセスし、Words and Phrases学習シート、本文音声、Task 活動用ワークシート、Grammar 活用動画にアクセスでき、個別の学習に活用できる。	(1)ほぼ全ページに二次元コードを設置している。 (2)Listen and Read、Extra Story、Listen、Eri and Kota Watchなどにアクセスでき、個別の学習に活用できる。	(1)193箇所の二次元コードから、711ファイルの音声や動画にアクセスできる。 (2)教科書本文の音声、新出語句の音声、リスニング音声、本文アニメーション映像・スライドショー映像、Targetの解説動画にアクセスでき、個別の学習に活用できる。

種目 外国語(英語 デジタル教科書) (1/1枚目)

発行者名 調査の観点	東京書籍	開隆堂	三省堂	教育出版	光村図書	啓林館
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。 (2)スラッシュで意味のまとまりを分ける機能は、1文が長い英文を理解する力に繋げることができる。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。 (2)半ページがデジタル教科書、半ページがノートという構成が分かりやすい。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。 (2)Key Sentence解説動画や選択肢のある単語クイズが中学生に馴染みやすい。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。 (2)「モデル録音→あなた」というシンプルな構成が、中学生にとってやりやすい。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。 (2)実写ドラマの動画があり、中学生が身近に感じる話題や場面設定で配慮されている。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。 (2)音声速度が0.4倍から4倍まで変更することができ、それぞれの発達段階で調整できる。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)教科書の二次元コードが使いやすい。内容も豊富で、クイズ形式問題、マスクができる、書き込みできるなど、使いやすい。 (2)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。	(1)フラッシュカードの編集・保存ができる。学習支援機能では、音声の再生速度や文字の大きさ等を選択できる。 (2)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。	(1)デジタルコンテンツでは、発音動画や文法解説動画が充実している。辞書機能がついているのもよい。書き込みはできない。 (2)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。	(1)二次元コードを用いた「まなびリンク」では、活動用ワークシートも充実している。やり取りの見本動画も用意されている。 (2)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。	(1)デジタルコンテンツでは、スピーキング能力をはかる「テストにトライ」等のコンテンツも充実している。 (2)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。	(1)音声の速度の変更できる。教科書のQRコンテンツの利用である。フラッシュカード、付箋、ノート(自由書き込みページ)の機能もある。 (2)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様、工夫や配慮がなされている。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。 (2)ツールバーが画面上にまとめられていて、表示位置は上下左右に変更できる。視覚的にも操作しやすい。目次、設定、ページ送りなどのアイコンが大きく見やすい。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。 (2)スピーカーのマークをクリックすることで音声を再生することができる等、視覚的に操作しやすい。ツールバーが画面の左側にまとめられて、表示位置を右側にも変更もできる。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。 (2)教科書紙面通りの表記。ツールバーが画面上にまとめられていて、表示位置は上下左右に変更できる。視覚的にも操作しやすい。目次、設定、ページ送りなどのアイコンが大きく見やすい。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。 (2)スピーカーのマークをクリックすることで音声を再生することができる等、視覚的に操作しやすい。ツールバーが画面の左側にまとめられて、表示位置を右側にも変更できる。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。 (2)ツールバーが画面下にまとめられていて、視覚的に操作しやすい。ふりがなや、画面の色の設定などが細かく行える。	(1)紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。 (2)ツールバーが画面左側にまとめられていて、表示位置を上側にも変更できる。ルビや白黒反転の機能があり、見やすく調整できる。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)教員にとっての使いやすさ ・紙の教科書に近い画面で操作できるため、授業準備と指導のイメージをしやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・学習者が書き込みしたものを残せるため、いつでも振り返りできる。 (3)地域性への配慮 紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	(1)教員にとっての使いやすさ ・音声の再生方法が細かく選択でき、音声指導がしやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・学習者が書き込みしたものを残せるため、いつでも振り返りできる。 (3)地域性への配慮 紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	(1)教員にとっての使いやすさ ・新出語句を覚えさせる上で、クイズやフラッシュカード等のコンテンツがあり、家庭学習等の指示を出しやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・学習者が書き込みしたものを残せるため、いつでも振り返りできる。「発音チェック」機能では、音声で3段階で判定することができる。 (3)地域性への配慮 紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	(1)教員にとっての使いやすさ ・新出語句や本文の音読練習をさせる際、学習者自ら速度を変えることができ、家庭学習の指示を出しやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・自分の英語を録音して発音を確認したり、単語を繰り返し学習する機能使ったりして、家庭学習を行うことができる。 (3)地域性への配慮 紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	(1)教員にとっての使いやすさ ・見やすい画面構成で使いやすい。画面保存ができ、指導したことを記録に残せるため、ノートの代わりとして使わせやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・自分の英語を録音して発音を確認したり、単語を繰り返し学習する機能使ったりして、家庭学習を行うことができる。 (3)地域性への配慮 紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	(1)教員にとっての使いやすさ ・本文の音読スピードを変えられるため、音読練習をさせやすい。 (2)家庭学習を行う際の配慮 ・学習者が書き込みしたものを残せるため、いつでも振り返りできる。 ・教員用デジタル教科書の集約機能を使うことで生徒がデジタル教科書で解いた問題の進捗状況や正答率を確認できる。 (3)地域性への配慮 紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。	紙の教科書(調査研究報告書1枚目)と同様である。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	(1)デジタル教科書にある内容は、紙の教科書の二次元コードからアクセスできる内容を中心に構成されている。二次元コードの内容以外には、教科書に書き込みをする機能や音声の再生機能などがある。 (2)本文の音読機能、コントラストや明度調整、ルビ表示機能もあり、個別最適な学びにつながる機能がある。Activity Sheetや思考ツールを活用し協働的な学びにつながる機能もある。	(1)デジタル教科書にある内容は、紙の教科書の二次元コードからアクセスできる内容を中心に構成されている。二次元コードの内容以外には、教科書に書き込みをする機能などがある。 (2)本文・語句の音読機能、単語学習アプリなどがあり、自学自習に活用することができる。ワークスペースにはノート機能があり、個別最適な学び・協働的な学びにつなげることができる。	(1)デジタル教科書にある内容は、紙の教科書の二次元コードからアクセスできる内容を中心に構成されている。二次元コードの内容以外には、教科書に書き込みをする機能や音声・動画の再生機能などがある。 (2)資料映像や文法の解説動画、基本文の練習画面に瞬時にアクセスすることができる。コントラストや明度調整、ルビ表示機能もあり、個別最適な学びにつながる機能がある。	(1)紙の教科書の二次元コードとは、別の機能が多い。デジタル教科書では、書き込み保存が可能である。個別の学びに活用できる。 (2)思考ツール、録音機能、フラッシュカードもあり、個別最適な学びへの機能が充実している。ルビ表示や白黒反転など、見やすく個に応じて変更できる。	(1)紙の教科書の二次元コードとは、別の機能が多い。デジタル教科書ではデジタルノートや付箋などを使うことができる。 (2)学習者用のタスクバーがあり、拡大、保存、録音、印刷などがあり、個別最適な学びに向けた、整備された画面になっている。教科書を開いた画面から、様々なコンテンツにワンクリックでアクセスでき、操作性が高く、画面構成も分かりやすい。	(1)紙の教科書の二次元コードとは、別の機能が多い。デジタル教科書ではナビメニュー(操作用メニュー)を使うことができ、ツールが非常に多い。 (2)お道具箱ツールからは、本文ドラマ動画、タイマー、ペンマンシップ、文法問題も確認できる。個別の学びに活用できる。ノートの代わりになる「バインダー」という機能があり、自由に書き込みできるテンプレートもある。English Centralも実装予定である。

種目 道徳（1／1枚目）

発行者名 調査の観点	東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	Gakken	あかつき教育図書	日本教科書
1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)40近い題材を教材に取り入れ、教師が目標に基づく授業が行えるようになっている。また、「補充・深化・統合」の視点が取り入れられる内容の工夫がされている。 (2)生徒の発達段階に応じた工夫として、読み物や写真、その他の資料が各学年で分かり易くなっており、生徒が学習の中で道徳的価値を深められる配慮をしている。	(1)教師が道徳的価値について考えを深めさせられるような発問構成となっている。内容においては、学年ごとに言語活動の充実が図られる教材を配置し、多面的・多角的に考えることができる工夫が見られる。 (2)生徒の発達段階に応じた課題や内容があり、系統立てて3年間の授業構成が示されるなどの工夫がある。	(1)ユニットごとに各学年の内容が構成された教材として活用でき、学習指導要領が示す目標や内容に沿った工夫がある。 (2)生徒の発達段階に応じて、7つの視点を教材と構成として取り入れ、生徒が授業を通して、道徳性を育める工夫がある。	(1)いじめについて考えることを含む3つの柱を重視した題材から、道徳性を育めるよう各学年に応じた内容が展開される工夫がある。 (2)言語活動や問題解決的な学習を各学年で深められるようになっており、生徒の心身の発達段階に応じて学べる教材の配置がある。	(1)教師が道徳的価値を多面的・多角的に考えさせることができる題材や内容に工夫が見られ、目標に応じた授業が展開できる工夫がある。 (2)3つの「つなぐ」という視点が教科書に取り入れられ、学年ごとに主体的に考え、他者との関わりを深めて学習に取り組みめる工夫がある。	(1)教師が生徒に広い視野から考えや価値を深めさせることができる教材を複数配置しており、各学年に応じて4つの視点が分かり易く示されるなどの工夫がある。 (2)情報モラルや共生社会、キャリア教育など発達段階に応じた内容で生徒がそれらの内容について考えることができる工夫がある。	(1)教師が生徒に自分自身の振り返りや将来への目標を考えさせることができるページが設定されている。また題材選定や写真などの工夫が見られる。 (2)ウェルビーイングカードが配置され、生徒の発達段階に応じて、自分の考えを主体的に発信できる工夫がある。
2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)各領域の分量について生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)各単元の最後に「考えよう」「見つめよう」のコーナーがあり、生徒が自らの考えをふり返ることができる工夫がある。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年ではいじめに関連していることが明記された教材が3編ある。	(1)各単元の最初に発問が記載され、導入場面で生徒が資料について考えるきっかけとなるような工夫がある。各単元の最後に、3つの発問が記載され、生徒が自分の考えや他者の考えを共有する工夫がある。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年ではいじめに関連する教材が4編ある。	(1)各単元の最後に、「考えよう」という記載があり、生徒が主体的に道徳的価値について考えたり、学習内容を振り返ったりできる工夫がある。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年ではいじめに関連していることが明記された教材が3編ある。	(1)各単元の最後に、「考えよう」「自分にプラスワン」の発問があり、生徒が学習を通した学びの振り返りができる工夫がある。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年ではいじめに関連していることが明記された教材が6編ある。	(1)本文の最後に「見つめよう」「話し合おう」「振り返ろう」「踏み出そう」のコーナーがあり、生徒が道徳的価値について主体的に考えられる工夫がある。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年ではいじめに関連していることが明記された教材が2編ある。そのほか、いじめに関連して考えさせることができる資料が6編ある。	(1)単元の最後に「自分を見つめて考える」「考えを深める」コーナーがあり、生徒が主体的に道徳的価値について考えたり、考えを共有できる工夫がある。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年でいじめに関連する教材が4編ある。いじめ防止や情報モラルなどの現代的課題に対応する教材を1か所に集め、それらの教材をまとめるページを設けている。	(1)ウェルビーイングカードがついており、読み物資料等から感じたテーマを各自3枚選ぶことができる。また、そのカードをもとに生徒が意見交換ができるような使い方ができる。 (2)発達段階を考慮した分量と構成になっている。 ・第1学年ではいじめに関連していることが明記された教材が4編ある。
3 ユニバーサルデザインに関する配慮をしているか。 (1)生徒にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見易く、分かり易いか。	(1)ユニバーサルデザイン化している。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、中学生が読むのに適したフォントの大きさである。学習者用デジタル教科書では文字の色やフォントの変更、機械音声の読み上げ、ルビなどの機能の配慮がある。 (2)登場人物の挿絵では、スラックス着用の生徒の掲載があり、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・イラストだけでなく写真もユニバーサルカラーに近づけて補正している。1ページに占めるイラストや写真の面積が大きく、生徒に分かり易い工夫がある。	(1)ユニバーサルデザイン化している。字間・行間も読み易い工夫がある。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさに配慮している。常用漢字、固有名詞に振り仮名が付いている。脚注があり、教材理解に必要な解説の配慮がある。 (2)教材の区切りが分かり易く、生徒が使い易い紙面構成である。視覚的に生徒が興味・関心をもてるイラストや写真等を掲載している。スラックス着用の生徒の掲載があり、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・一つの教材につき、二つ以上のイラストや写真があり、読み物資料はイラストを多く使用して、状況や背景を生徒がイメージできる工夫がある。	(1)ユニバーサルデザイン化している。字間・行間も読み易い工夫がある。 ・常用漢字に振り仮名が付いている。ユニバーサルデザインフォントの明朝体が用いられている。 (2)視覚的に生徒の興味・関心をもてるイラストや写真などが掲載され、中心発問の場面に挿絵の掲載がある。また、登場人物の挿絵では、スラックス着用の生徒の掲載があり、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・一つの教材につき、二つ以上のイラスト写真が入っており、イラストだけでなく写真もユニバーサルカラーに近づけて補正している。	(1)ユニバーサルデザイン化している。 ・常用漢字に振り仮名が付いている。小さな振り仮名でも見易いように、振り仮名はユニバーサルデザインフォントのゴシック体が用いられている。 (2)教材の区切りが分かり易く、生徒が使い易い紙面構成である。登場人物の挿絵では、スラックス着用の生徒が掲載され、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・教材によって写真やイラストの大きさを換え、各教材を印象深い内容として捉えられる工夫がある。 ・教材によって写真やイラストの大きさを変えて、その教材を印象深い内容として捉えさせようという工夫がある。教科書にあるメモ欄に配色がある。	(1)ルビふりの文字を含めてユニバーサルデザイン化している。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、生徒が読みやすいように配慮している。学習者用デジタル教科書では文字の色やフォントの大きさの変更、自動音声の読み上げ、ルビなどの機能の配慮がある。 (2)教材の区切りが分かり易く、生徒が使い易い紙面構成である。登場人物の挿絵では、スラックス着用の生徒が掲載され、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・教材によって写真やイラストの大きさを変えて、その教材を印象深い内容として捉えさせる工夫がある。	(1)ユニバーサルデザイン化している。字間・行間も生徒が読みやすいように配慮している。 ・一般的な書体よりも少し太いUDフォントを使用し、生徒が読みやすいような配慮がある。 (2)教材の区切りが分かり易く、生徒が使い易い紙面構成になっている。登場人物の挿絵では、スラックス着用の生徒も掲載され、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・イラストがユニバーサルカラーで描かれている。議論のきっかけとなるカードが教科書の最後に用意されており、ユニバーサルカラーで作成されている。	(1)ユニバーサルデザイン化している。字間・行間も読み易く調整している。 ・ユニバーサルデザインフォントを使用し、生徒が読みやすいように配慮している。動画や漫画、写真やグラフなどの情報を取り入れている。 (2)教材の区切りが分かり易く、生徒が使い易い紙面構成である。3年生の表紙ではスラックス着用の生徒も掲載され、性別による服装や職業などに固定観念をもたせない配慮がある。 ・イラストがユニバーサルカラーで描かれている。議論のきっかけとなるカードが教科書の最後に用意されており、ユニバーサルカラーで作成されている。
4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使い易くするための配慮がされているか。 (2)生徒が家庭学習を行う際の配慮がされているか。 (3)地域性に対して配慮しているか。	(1)二次元コードが豊富にあり、学習用端末等を活用して容易に教材提示等で使うことができる。 ・発問に応じた集計フォームのファイルが用意されていて、主体的・対話的な学びを、1人1台学習用端末を有効に活用して、実現し易い。 ・1年間の学習を振り返る「振り返りシート」が用意されており、教師が生徒の成長を把握できる工夫がある。 (2)中心発問の場面絵が大きく示されている。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。星野富弘を扱っている教材があり、日光と八王子の関係から、地域性を深めることができる。	(1)他教科、特別活動の時間と関連付けられるコラムがある。 ・導入の発問が、各教材の本文の前に印刷されており、経験の浅い教員でも、授業展開が見通ししやすい。 ・1年間の学習を振り返る「振り返りシート」が用意されており、教師が生徒の成長を把握できる工夫がある。 (2)構成が、読み易く、写真、マンガ、絵本など理解し易い工夫がされている。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。また、八王子市出身の肥沼信次を第2学年で扱っており、郷土出身の人物について深める場面がある。	(1)二次元コードが豊富にあり、教師が学習用端末等を活用して、容易に教材提示等で使うことができる。 ・教材ごとに工夫された授業展開が印刷されており、経験の浅い教員でも、授業展開を見通ししやすい。 ・1年間の学習を振り返る「振り返りシート」が用意されており、教師が生徒の成長を把握できる工夫がある。 (2)スマイルメーター、哲学コーナーなどのデジタルコンテンツが充実しており、生徒が家庭学習でも活用できる工夫がある。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。	(1)別冊「道徳ノート」をワークシートとして使うことができる工夫がされている。二次元コードを読み取ってデジタルワークシートも使える。 ・別冊で、「道徳ノート」が付属しており、教員がワークシートなどを作成したり、準備したりする必要がない。 ・「道徳ノート」がポートフォリオとして、年間を通じて生徒の成長を把握できる工夫がある。 (2)二次元コードで、導入に関する動画を視聴することができ、授業の内容に主体的に取り組み易い。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。	(1)各題材にキーフレーズが載っていて、授業の導入で活用できる工夫がある。 ・各教材ごとに「クローズアップ」として、写真や読み物が掲載されており、「考え、議論する道徳」に向けた授業展開ができるような工夫がある。 ・1年間の学習を振り返る「振り返りシート」が用意されており、教師が生徒の成長を把握できる工夫がある。 (2)使用されている写真に印象的なものが多く、教材に対して生徒が興味・関心をもてる教材である。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。また、情報モラルを考える資料に、八王子市出身のローランドの著書を引用している。	(1)教材ごとのユニットが分かりやすく、重点的に学習することができる。 ・1年間の学習を振り返る「振り返りシート」が用意されており、教師が生徒の成長を把握できる工夫がある。 (2)二次元コードで、導入に関する動画を視聴することができ、授業の内容に、主体的に取り組みやすい。書体、文字の大きさに工夫がある。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。	(1)「もっと知りたい」というページがあり、考えを深めることができる。 ・第1学年の教材から、「自由とはなにか」などと言う抽象的な発問に対して、自由に意見をかせたり、話し合わせる場面を設定できる。 (2)使用されている写真や挿絵の人物の表情が見やすく工夫され、生徒が家庭でも読みやすい教材の工夫がある。 (3)郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を育む教材が配置されている。
5 小中一貫の視点から、学びの継続性や各教科の系統性について	・各学期の振り返りシートや心情円の付録など、小学校と同じ形式であり、円滑に中学校の学習内容に移行できる工夫がある。 ・小学校第1学年の教材「橋の上のおおかみ」、小学校第2学年の教材「泣いた赤おに」、小学校第6学年の教材「青の洞門」が補助教材で配され、小学校での学びを再び深める工夫がある。 ・全学年にNHK番組「こころ部」の教材が配され、小学校でもなじみ深く、円滑に学習できる工夫がある。	・第1学年の「1 ともち」という教材は、中学校に進学した当初の生徒が学びやすい工夫がある。 ・第2学年では、「24 『金のおの』その後」を配し、小学校第2学年で学習した「正直、誠実」について発達段階が上がった学年で、さらに深く学ぶことができる工夫がある。	・第1学年に「橋の上のおおかみ」、第2学年に「泣いた赤おに」、第3学年に「手品師」を補助教材として配し、小学校での学びを生かし、深い学びにつなげられる工夫がある。 ・中学校に進学して間もない生徒が小学校生活との違いを考えることができる「3 自分で決めるって？」を配し、円滑に中学校道徳の学習ができる工夫がある。	・第1学年のオリエンテーションページに、中学校の道徳科でどんなことを考えるのかを漫画で示し、学習を円滑に始められる工夫がある。 ・小学校の道徳定番教材（杉浦千畝の読み物資料）を世界平和の視点で取り上げ、より広く深く、教科横断的、発展的に考えられる工夫がある。	・最重点テーマを「生命の尊さ」とし、命の大切さについて小学校から系統的により深く学ぶことができる工夫がある。 ・漫画形式の教材を豊富に扱い、進学したばかりの生徒にとって、教材の内容項目や価値を理解し易い工夫がある。	・「自主、自律、自由と責任」、「思いやり、感謝」、「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」を重点内容項目として設定し、小中学校で大切にしている「いじめ防止」「人権尊重」の理念に関わる内容が充実し、系統的に学ぶことができる工夫がある。	・導入動画、漫画教材等を豊富に取り入れ、教材を視覚化する工夫がされ、進学したばかりの生徒にとって学習がしやすい工夫がある。
6 その他 ※各教科で、伝えたいことがあれば記載する。 例えば、 (1)二次元コードについて (2)ICTを活用した「個別最適な学び・協働的な学び」の充実に向けて等	・二次元コードから朗読音声、ワークシート、登場人物からのメッセージなどがあり、生徒が自宅でも個別最適な学びとして活用できる工夫がある。	・二次元コードから教材のあらすじが短い文章で見られる工夫がある。また、著作権や他教科の資料が閲覧できるようにリンクが設定され、道徳と関連付けた教科横断型の設定がされ、生徒が自宅でも個別最適な学びができる工夫がある。	・二次元コードから朗読音声、著作権のページにリンクで閲覧できるため、教師の授業支援や生徒が自宅でも個別最適な学びができる工夫がある。	・二次元コードから、朗読音声、ワークシート、心情メーターや思考ツールなどが収録されている道具箱があり、生徒が自宅でも個別最適な学びができる工夫がある。	・二次元コードから思考ツール、関連動画、関連資料が見られ、生徒が自宅でも個別最適な学びができる工夫がある。	・二次元コードから各教材の導入・終末で活用できる動画、生徒が個別最適な学びで活用できる関連資料動画などの工夫がある。	・二次元コードから生徒の個別最適な学びで活用できる読み物資料のドラマ形式動画、登場する主人公の情報などが見られる工夫がある。